

NEC

P C 9 8 -

NX

PC98-**NX** SERIES

VersaPro NX

VA23D/WX・VA23D/WS
VA23C/WS・VA23C/WD

(Windows NT インストール)

活用ガイド ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

マニュアルの 主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。



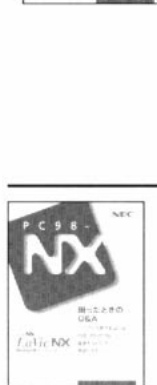
- 『入門ガイド』（LaVieの一太郎モデルとWordモデルのみ）
Windowsやワープロの基本操作を解説した、入門者向けのマニュアルです。
 - ・NXパッドの基本操作
 - ・ウィンドウの基本操作
 - ・ワープロ入門（一太郎／Word）
 - ・ファイルの使い方
 - ・いろいろなソフトウェアの紹介



- 『インターネットガイド』（LaVieのみ）
インターネットに接続する方法、パソコンをFAXの代わりに使う方法などを説明しています。
 - ・インターネットとは
 - ・インターネットを体験する
 - ・ホームページを見る
 - ・外出先での通信
 - ・パソコン通信
 - ・FAXを使う



- 『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。
 - ・キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
 - ・周辺機器の接続と利用方法
 - ・システム設定について



- 『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法や再セットアップの方法について説明しています。
VersaProでは、本書にさまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。
 - ・アプリケーションソフトの利用方法
 - ・他のOSを利用する場合の設定
 - ・再セットアップの方法



- 『困ったときのQ&A』（LaVieのみ）
さまざまなトラブルへの対処方法をQ&A形式で説明したマニュアルです。
 - ・トラブル解決Q&A



はじめに

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

1998年 11月 初版

本機に市販のWindows 95やWindows NT Server 4.0をインストールしてご使用になることはできません。

対象機種

(Windows NTインストールモデル)

VersaPro :VA23D/WX、VA23D/WS、VA23C/WS、VA23C/WD

808-875488-196-A

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性あります。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

13.3インチ液晶ディスプレイ搭載モデル

13.3インチの液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。

12.1インチ液晶ディスプレイ搭載モデル

12.1インチの液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。

FAXモデム内蔵モデル

FAXモデムを内蔵しているモデルのことです。

LAN内蔵モデル

LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。

【 】

【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」

「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows、 Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク・ロゴは参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

FAXモデム内蔵モデルの場合：

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	電話回線
VA23D/WX、VA23D/WS、 VA23C/WS、VA23C/WD	S98-3089-0

■ 電波障害自主規制について

LAN内蔵モデルの場合：

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

上記以外のモデルの場合：

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

[バッテリバックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリバックを取り付けている場合]

本装置にバッテリバック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが一、二の不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows NT[®] 4.0は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧表」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Active Movie、NetMeeting、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Puma Technology、Puma Technologyロゴ、DSX Technology、DSX Technologyロゴ、IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPuma Technology、Inc.の商標です。

MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPLは、Microcom、Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 1998

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

本機の機能	1
各部の名称	2
表示ランプ	5
キーボード	7
キーの使い方	7
キーボードを設定する	10
日本語入力の使い方	12
ポインティングデバイス	13
NXパッドの使い方	13
ポインティングデバイスを設定する	14
内蔵ハードディスク	17
ハードディスクのメンテナンス	17
フロッピーディスクドライブ	18
使用できるフロッピーディスクの種類	18
フロッピーディスクのセットのし方と取り出し方	19
CD-ROMドライブ	20
CD-ROMのセットのし方と取り出し方	21
画面表示機能	24
表示を調整する	24
表示できる解像度と表示色	25
解像度と表示色を変更する	26
バッテリーで本機を使う	27
バッテリーの充電	27
バッテリーで本機を使うときの注意	27
バッテリー残量の確認	29
バッテリーリフレッシュ	30
バッテリーパックの交換	32
省電力機能	35
省電力機能の種類	35
スタンバイモード	36
サスペンド/レジューム機能	36
パワーマネージメント	39
セキュリティ機能	40
本機のセキュリティ機能	40

セキュリティ機能の使用例	41
パスワードを設定しているときの電源の入れ方	42
パスワードを設定しているときのスリープからの復帰	43
赤外線通信機能	44
赤外線通信を行うまえに	44
機器の配置について	45
サウンド機能	46
内蔵モデム（FAXモデム内蔵モデルのみ）.....	48
電話回線との接続	48
ダイヤル設定のし方	50
ネットワーク通信機能（LAN内蔵モデルのみ）.....	52
100BASE-TXの概要	53
リンクケーブルについて	54
ネットワークへの接続	55
ユニバーサル管理アドレス	56
運用上の注意	56
周辺機器を使う	57
接続できる周辺機器	58
周辺機器を利用する	61
周辺機器を利用するための知識	61
プリンタを使う	64
プリンタを接続する	64
プリンタを設定する	65
外部ディスプレイを使う	68
CRTディスプレイを接続する	68
プロジェクタを接続する	70
外部ディスプレイの設定	70
PCカードを使う	71
PCカードのセットのし方と取り出し方	72
PCカードの設定	74
PCカードデバイスドライバのインストール	77
CardBus対応PCカードの利用	78
メモリ（RAM）の増設	81
増設RAMボードの取り付けと取り外し	81

PART

3

PART

4

ポートバーを使う	86
ポートバーの取り付け方と取り外し方	86
その他の機器を使う	89
シリアルコネクタ	89
パラレルコネクタ	89
マウス / テンキーボード用コネクタ	90
DCコネクタ	90

システムの設定 91

PowerProfiler	92
PowerProfilerで設定できること	92
PowerProfilerを使う	92
設定項目一覧	94
BIOS セットアップメニュー	99
BIOSセットアップメニューを使ってできること	99
BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには	99
BIOSセットアップメニューを使う	100
工場出荷時の値に戻す	102
設定項目一覧	102
起動順位の設定	109

付録 111

本機のお手入れ	112
機能一覧	114
型番の読み方と機能仕様	114
仕様一覧	115
内蔵FAXモデム機能仕様(FAXモデム内蔵モデル)	118
内蔵LAN機能仕様(LAN内蔵モデル)	120
割り込みレベル・DMAチャンネル	121
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	121

索引 123

本機の機能

本機の各部の名称とさまざまな機能について説明しています。

このPARTの内容

各部の名称

表示ランプ

キーボード

ポインティングデバイス

内蔵ハードディスク

フロッピーディスクドライブ

CD-ROMドライブ

画面表示機能

バッテリーで本機を使う

省電力機能

セキュリティ機能

赤外線通信機能

サウンド機能

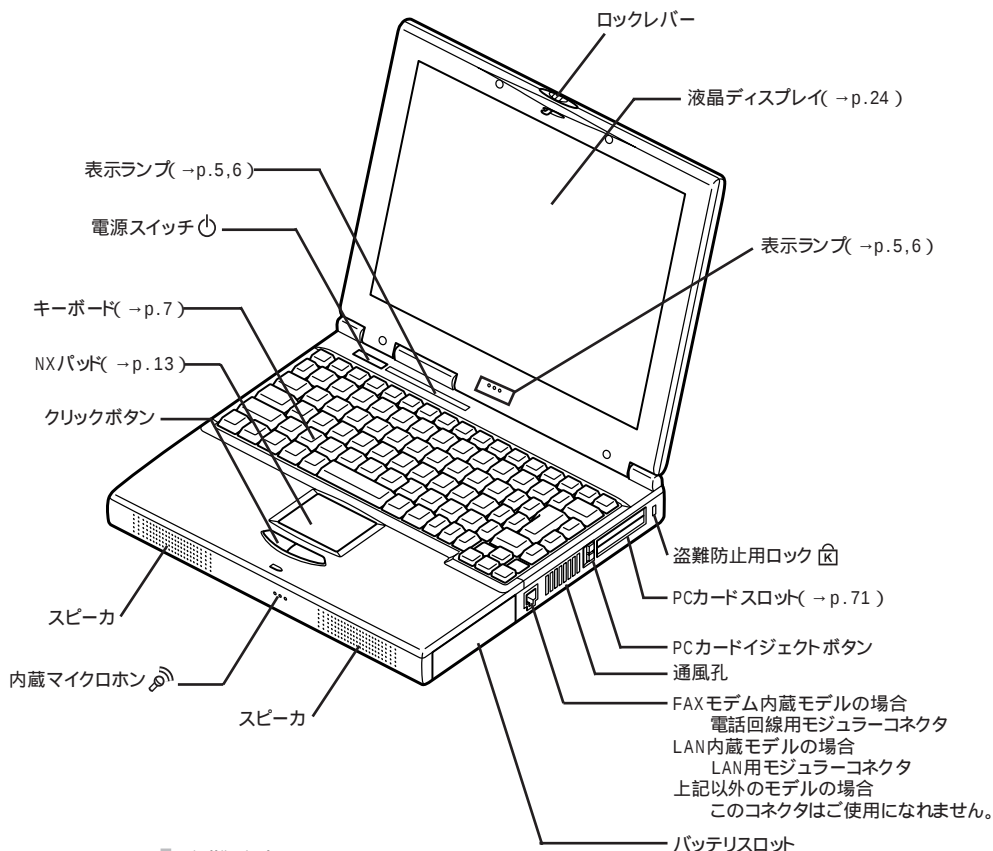
内蔵モデム(FAXモデム内蔵モデルのみ)

ネットワーク通信機能(LAN内蔵モデルのみ)

各部の名称

本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

前面



盗難防止用ロック

本機の盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

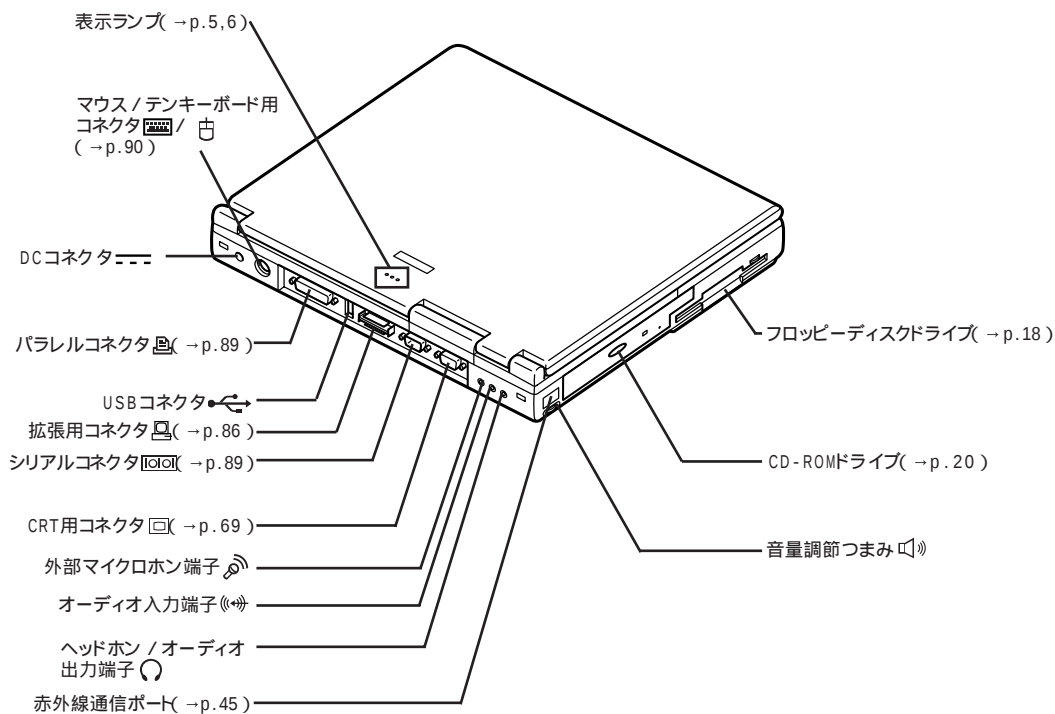
日本国内総販売代理店の連絡先は、次のとおりです(1998年1月現在)。

日本ポラロイド株式会社 電子映像営業グループ

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号 第30森ビル

Tel:03-3438-8879 Fax:03-5473-1630

背面

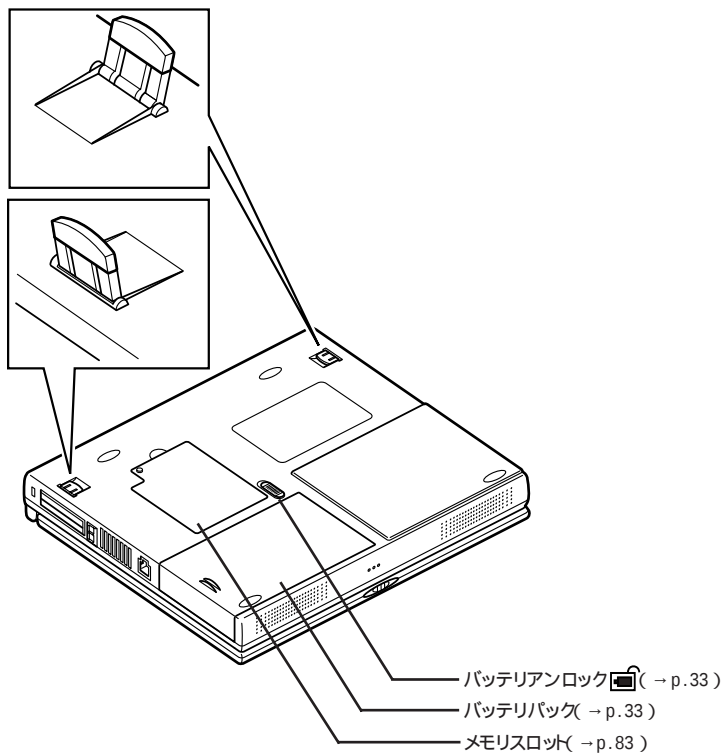


チェック!! 本機にインストール済みのWindows NTは、USB対応の周辺機器に対応していません。

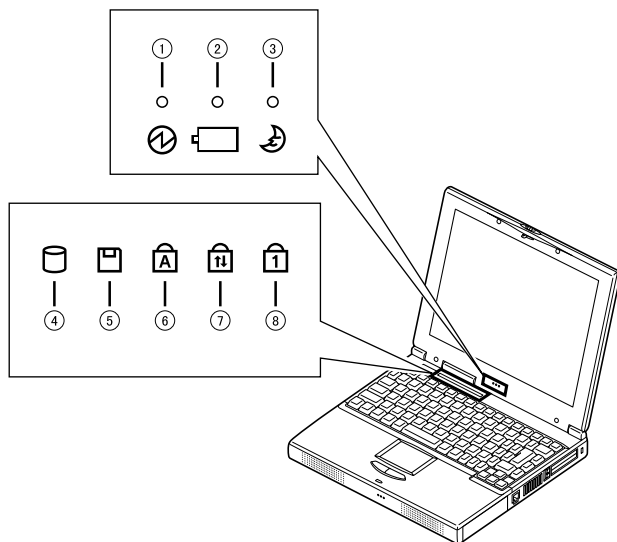
底面

ツメ

両方のツメを立てることによって、本体の角度調節ができます。



表示ランプ



電源ランプ①

- ・ 緑点灯 電源が入っている状態。または、スタンバイ状態やサスペンド状態。
- ・ 黄色点灯 バッテリー容量が少ない
- ・ オレンジ点灯 . バッテリー容量が残りわずか
- ・ 消灯 電源が切れている

バッテリー充電ランプ□

- ・ オレンジ点灯 . バッテリー充電中
- ・ 消灯 ACアダプタが接続されていない、または充電完了

サスペンドランプⓓ

- ・ 緑点滅 サスペンド状態
- ・ 消灯 サスペンド状態ではない

ハードディスクアクセスランプⓓ

- ・ 緑 アクセス中
- ・ 消灯 アクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ

- ・ 緑 アクセス中
- ・ 消灯 アクセスしていない

キャップスロックキーランプ

- ・ 緑 【Caps Lock】がロックされている
英字を入力すると大文字になります。
- ・ 消灯 【Caps Lock】がロックされていない
英字を入力すると小文字になります。

スクロールロックランプ

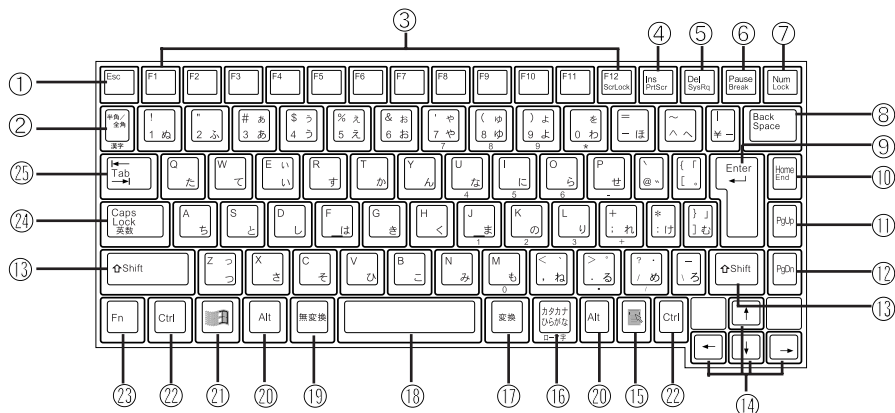
- ・ 緑 【Scr Lock】がロックされている
- ・ 消灯 【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ

- ・ 緑 【Num Lock】がロックされている
キーを押すとキー前面の文字が入力されます。
- ・ 消灯 【Num Lock】がロックされていない
キーを押すとキー上面の文字が入力されます。

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称



- | | |
|----------------------------|--|
| ① 【Esc】: エスケープキー | ⑬ 【⌘】: アプリケーションキー
Windows 98、Windows NT 4.0使用時に
使うことができます。 |
| ② 【半角 / 全角】: 半角 / 全角キー | ⑭ 【カタカナ ひらがな】: かなキー |
| ③ 【F1】~【F12】: ファンクションキー | ⑮ 【変換】: 変換キー |
| ④ 【Ins】: インサートキー | ⑯ スペースキー |
| ⑤ 【Del】: デリートキー | ⑰ 【無変換】: 無変換キー |
| ⑥ 【Pause】: ポーズキー | ⑱ 【Alt】: オルトキー |
| ⑦ 【Num Lock】: ニューメリックロックキー | ⑲ 【  田】: Windowsキー
Windows 98、Windows NT 4.0使用時に
使うことができます。 |
| ⑧ 【Back Space】: バックスペースキー | ㉒ 【Ctrl】: コントロールキー |
| ⑨ 【Enter】: エンターキー(リターンキー) | ㉓ 【Fn】: エフエヌキー |
| ⑩ 【Home】: ホームキー | ㉔ 【Caps Lock】: キャップスロックキー |
| ⑪ 【PgUp】: ページアップキー | ㉕ 【Tab】: タブキー |
| ⑫ 【PgDn】: ページダウンキー | |
| ⑬ 【Shift】: シフトキー | |
| ⑭ 【↑】【↓】【→】【←】: カーソル移動キー | |

特殊なキーの使い方

キー操作	説 明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、ローマ字を入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、ローマ字を入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角 / 全角】	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ ひらがな】 (MS-IME97使用時のみ)	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のローマ字の組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→P.9)。

ホットキー機能【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能は【Fn】と同じ色(青)でキー上面に印字されています。

機 能	キー操作	説 明
ディスプレイ切り替え 	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「両方表示」→「内蔵液晶ディスプレイ」→「外部モニター」の順に切り替わります(→p.70)。
スタンバイモード	【Fn】+【F4】	スタンバイモードにします(→p.36)。
画面の伸縮	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示するよう切り替えます。
システムスピーカー 	【Fn】+【F6】	システムスピーカーのオン/オフをします。
節電レベル選択 	【Fn】+【F7】	パワーマネジメントレベルを変更して、望みの節電レベルを選択します(→p.39)。
輝度を上げる 	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)(→p.24)。
輝度を下げる 	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)(→p.24)。
コントラスト調節 	【Fn】+【F10】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイのコントラストが強くなります(8段階)。
コントラスト調節 	【Fn】+【F11】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイのコントラストが弱くなります(8段階)。
スクロールロック	【Fn】+【F12】	【Scr Lock】の役割
プリントスクリーン	【Fn】+【Ins】	【Prt Scr】の役割
システムリクエスト	【Fn】+【Del】	【Sys Req】の役割
右Windows	【Fn】+【  】	右【  】の役割
Break	【Fn】+【Pause】	【Break】の役割
End	【Fn】+【Home】	【End】の役割

HPA液晶ディスプレイ搭載モデルのみ

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F7】 節電レベル選択 を除く)。

キーボードを設定する

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする
「キーボードのプロパティ」が表示されます。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

- ・文字入力時の繰り返し入力タイミング調節
- ・カーソルの点滅速度の調節
- ・日本語入力システムの選択
- ・レイアウトの設定

「速度」タブでの設定

表示までの待ち時間

一つのキーを押し続けたときに、入力の繰り返しが始まるまでの時間を調節します。

表示の間隔

一つのキーを押し続けたときに、文字の入力が繰り返される間隔を調節します。

カーソルの点滅速度

カーソルの点滅する間隔を調節します。

「言語」タブでの設定

言語

よく使う日本語入力システムを一覧から選び、「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」欄に表示され、登録されます。

追加

「追加」ボタンをクリックして「言語の追加」ウィンドウを表示させ、追加したい言語を選びます。

プロパティ

日本語入力システムを一覧から選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定のウィンドウが表示されます。「ローマ字 / かな入力」¹「入力モード / 方式」²「句読点の種類」などを設定できます。

削除

削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。

言語の切り替え

言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選択できます。

タスクバー上に状態を表示

「タスクバー上に状態を表示」をクリックして ☒ にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューがタスクバーに表示できます。

別売のキーボードを使うには

別売のテンキーボードやキーボードを接続して使用することができます。テンキーボードは本機背面のマウス / テンキーボード用コネクタ  / ④ に接続します。

参照 別売のテンキーボードやキーボードの接続 → PART2の「その他の機器を使う」
(p.90)

日本語入力の使い方

本機には、日本語入力システムとしてMS-IME97が組み込まれています。
入力方法や操作方法については、「ヘルプ」をご覧ください。

日本語入力のオン、オフのし方

オンのし方

- 1 タスクバーの右にある  をクリックする
- 2 表示されたメニューの「日本語入力-オン」をクリックする
これで日本語入力がオンになりました。

オフのし方

- 1 タスクバーの右にある  をクリックする
- 2 表示されたメニューの「日本語入力-オフ」をクリックする
これで日本語入力がオフになりました。

MS-IME97の「ヘルプ」を参照するには

- 1 日本語入力システムをオンにして、ツールバーから「ヘルプ」ボタンをクリックする
- 2 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする
- 3 「ヘルプ」を終了したいときは、「キャンセル」ボタンまたは  をクリックする

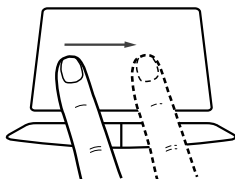
ポインティングデバイス

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

NXパッドの使い方

ポインタ(カーソル)の移動

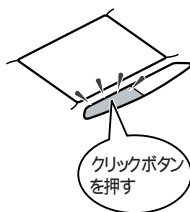
パッド上で指を動かすと、指の動きに合わせて画面上のポインタ(カーソル)が動きます。



クリックとダブルクリック

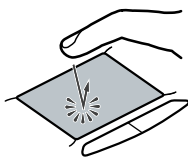
左または右のクリックボタンを押します。

1回押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」と言います。

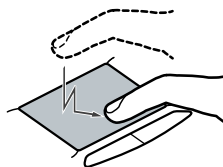
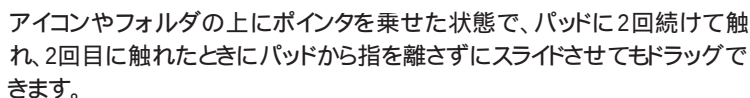


タップ

クリックボタンを押す代わりに、指先でパッドを軽くたたいてクリックする方法をタップと言います。1回たたくことをタップ、2回連続してたたくことをダブルタップと言います。それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。



アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左クリックボタンを押したまま指をパッド上で軽くすべらせると、ドラッグできます。



Windowsでポインティングデバイスをより使いやすく設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。



「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

- ・ボタンの設定
- ・ポインタデザインの選択
- ・ポインティングデバイスの動作の調節
- ・方向の調節
- ・オートジャンプの設定
- ・タッピングの調節

「ボタン」タブの設定

ボタン設定

右きき用、左きき用、それぞれに合わせて左右のクリックボタンの設定ができます。

ダブルクリック速度

ダブルクリックのクリック間隔の調節を行います。

Mボタンの設定

本機のNXパッド使用時は設定できません。

「ポインタ」タブの設定

デザイン

ポインタのデザインを変更することができます。

「動作」タブの設定

アクセラレーション

パッド上で指を素早く動かすことで、ポインタの移動速度を「速度」欄で設定した以上に速くすることができます。パッド上でゆっくり指を動かしたときは「速度」で設定した速度で動きます。

速度

ポインタの動作速度を調節します。

「方向」タブの設定

方向設定

パッド上で指を動かした方向と、画面上のポインタの移動方向とを調整します。マウスポインタが正しい方向に動かないときなどは、ここで調整することができます。

オートジャンプ

オートジャンプ

ウインドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上やウインドウ左上のコントロールメニューボックス、ウインドウの中央などに自動的に合わせるように設定できます。

タッピング

タッピング

☐ (オフ) にすると、タップが効かないように設定できます。

タッピング速度

タップする速度を調節します。タップの間隔(指をパッドに触れてから離すまで)を調整することで、まちがって触れただけではタップにならないように設定できます。

ドラッグの設定

タッピングによるドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中で指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。

タイピング

キーボードからキー入力しているときに、タップの機能が働かないように設定できます。キー入力時にまちがってタップされるのを防ぐことができます。キー入力が終わったら、タップは有効になります。

内蔵ハードディスク

ハードディスクは高速で回転する円盤（ディスク）上に、Windows NTやアプリケーションなどのソフトウェアや、それらで作成したファイルを磁気的に記録して、読み出すための精密装置です。強い衝撃や過度の重量などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。

また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

✓チェック!! 本機では、ご購入時には約2Gバイト(2,047Mバイト)のみが使用できるようになっています。残りの容量を使用するには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ハードディスクのメンテナンス

Windows NTには、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。

エラーチェックプログラム

ハードディスクはプログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。コンピュータの使用中にハードディスクで障害が発生することもあります。軽い障害であれば、エラーチェックプログラムを使って修復することができます。

- 1 Windows NTのデスクトップで「マイコンピュータ」をダブルクリックする
- 2 修復するハードディスクのアイコンをクリックする
- 3 「ファイル」→「プロパティ」を選択して、「ツール」タブをクリックする
- 4 「チェックする」ボタンをクリックする
- 5 「チェックディスクオプション」を選択したら、「開始」ボタンをクリックする

✓チェック!! 定期的にエラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーが無いことを確認してください。

フロッピーディスクドライブ

本機には3.5インチフロッピーディスクドライブが1台内蔵されています。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

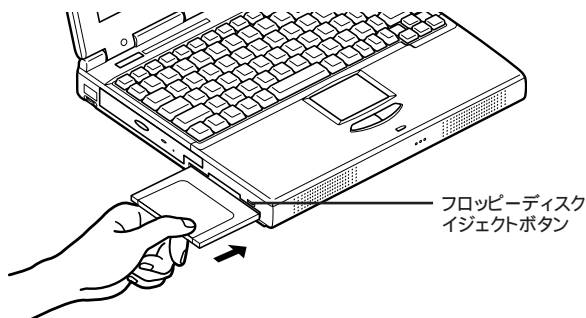
作業内容 フォーマット	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
640Kバイト	-	-	-
720Kバイト	○	○	○
1.44Mバイト	○	○	○
1.2Mバイト	○	○	○

- ✓チェック!!**
- ・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
 - ・1.2Mバイトのフロッピーディスクは、Windows NTの「ディスクのコピー」でバックアップをとることができません。
 - ・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください（これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です）。
 - ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種別を判別するために時間がかかっているためです。このような場合は、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。

フロッピーディスクのセットのし方と取り出し方

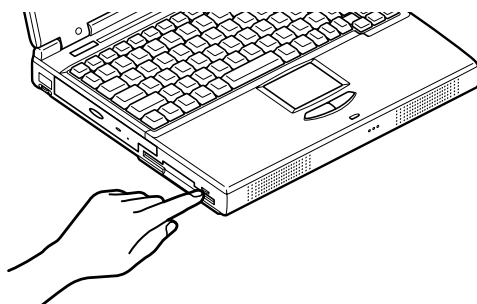
フロッピーディスクのセットのし方

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。



フロッピーディスクの取り出し方

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。

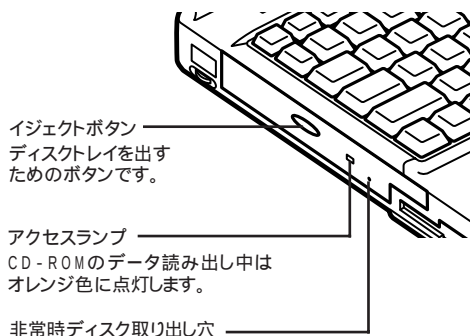


- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

✓チェック!! フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ  が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

CD-ROMドライブ

ここではCD-ROMドライブの取り扱いについて説明しています。



CD-ROMドライブのボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

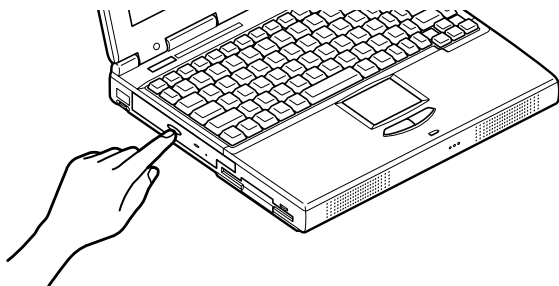
使用上の注意

- ・ CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ アクセスランプが点灯しているときは、CD-ROMを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ・ ラベルなどが貼ってあるなど、重心バランスの悪いCD-ROMを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じる場合があります。これは故障の原因となるため、CD-ROMの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。

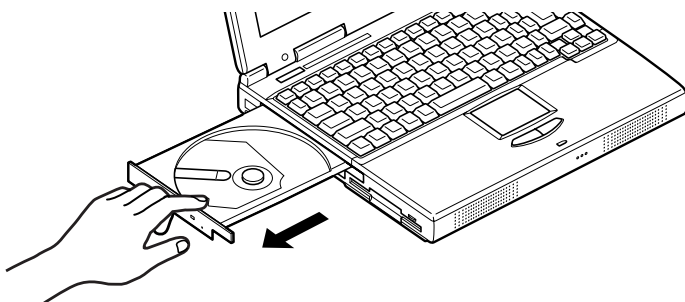
CD-ROMのセットのし方と取り出し方

CD-ROMのセットのし方

- 1** イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。

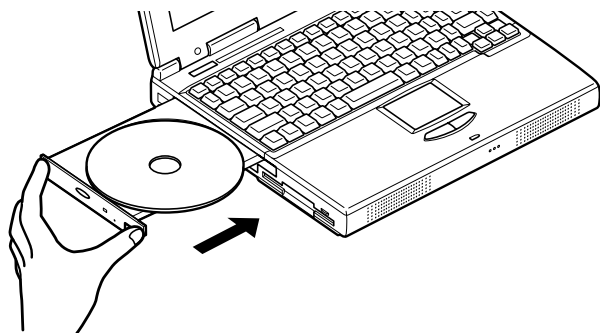


- 2** 手でディスクトレイを静かに引き出す



- 3** CD-ROMのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込む

- 4** イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

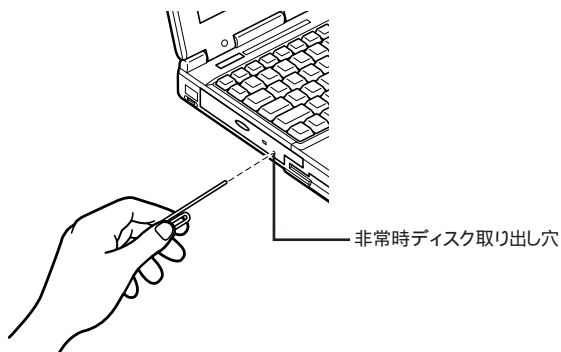


CD-ROMの取り出し方

- 1** イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2** 手でディスクトレイを静かに引き出してから、CD-ROMを取り出す
- 3** イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

非常時のCD-ROMの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなかった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程度の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。



針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

✓チェック!! イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。

画面表示機能

本機の液晶ディスプレイで表示できる解像度と表示色について説明しています。

本機は、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタなどに画面を表示することもできます。

参照 別売のディスプレイやプロジェクタについて→PART2の「外部ディスプレイを使う」(p.68)

表示を調整する

キーボードの【Fn】キーを使うと、次のような表示の調整ができます。

機 能	キー操作	説 明
ディスプレイ切り替え 	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「両方表示」→「内蔵液晶ディスプレイ」→「外部モニター」の順に切り替わります(→p.70)。
画面の伸縮	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示するよう切り替えます。
輝度を上げる 	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる 	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
コントラスト調節 	【Fn】+【F10】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイのコントラストが強くなります(8段階)。
コントラスト調節 	【Fn】+【F11】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイのコントラストが弱くなります(8段階)。

HPA液晶ディスプレイ搭載モデルのみ

表示できる解像度と表示色



解像度

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

本機のカラー液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度	表示色	本機の液晶 ディスプレイ のみに表示	別売の ディスプレイ のみに表示	本機の液晶 ディスプレイ と別売の ディスプレイ の同時表示 ¹
640×480ドット	26万色中256色	●		●
	65,536色	●		●
	1,677万色 ²	●		●
800×600ドット	26万色中256色	○		○
	65,536色 ³	○		○
	1,677万色 ²	○		○
1,024×768ドット	26万色中256色	5		5
	65,536色 ⁴	5		5

- ：【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大縮小切り換え可能。（縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される）
- ：13.3インチ液晶ディスプレイ搭載モデルでは、画面のまわりが黒く表示される
：フルスクリーン表示可能
- 1：別売CRT未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される
- 2：本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現
- 3：12.1インチ液晶ディスプレイ搭載モデルのご購入時の設定
- 4：13.3インチ液晶ディスプレイ搭載モデルのご購入時の設定
- 5：13.3インチ液晶ディスプレイ搭載モデルではフルスクリーン表示、12.1インチ液晶ディスプレイ搭載モデルではバーチャルスクリーン表示

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

本機の画面の設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「ディスプレイの設定」タブをクリックする



3 解像度または表示色を変更する

解像度の変更:

「デスクトップ領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

表示色の変更:

「カラーパレット」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示に従って操作してください。

バッテリーで本機を使う

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリーパックだけで駆動することができます。

バッテリーの充電

- ✔ **チェック!!** バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。

バッテリーの充電の仕方

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。

本機の電源を入れて使用していても充電されますが、電源を切った状態の方が充電時間は短くなります。

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照▶ バッテリーの充電時間について→PART4の「機能一覧」(p.116)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、表示ランプで確認することができます(→p.5)。

充電状態	バッテリー充電ランプ 
充電中	オレンジ点灯
充電完了(フル充電)	消灯

バッテリーで本機を使うときの注意

- ✔ **チェック!!**
- ・バッテリーが十分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。
 - ・充電を行う際には、できるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

- ・フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーリフレッシュを実行する(→p.30)
- ・本機を1ヵ月以上使わないときは、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する

バッテリーの上手な使い方

- ・バッテリーだけで本機を長時間使用の場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.35)

- ・バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2～3ヵ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、警告音が鳴り、バッテリー残量が少ないというメッセージが表示されたあと、自動的にサスペンド状態(→p.36)になります。この場合は、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプが点灯し、バッテリーの充電が始まります。

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

- ・ Windowsのタスクバーにある  の上にマウスポインタを合わせる



この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリーの残量により異なります。

- ・ タスクバーの  をダブルクリックして、表示された「PowerProfiler」ウィンドウを見る



- ・ 「スタート」ボタン→「プログラム」で「PowerProfiler」を開き、「バッテリー」タブをクリックして、表示された「電源のプロパティ」ウィンドウを見る



ACコンセントから電源を供給しているときは、 は  に変わります。

✓チェック!! フル充電された状態のときには、バッテリー残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーを完全に使い切らないまま充電を繰り返していると、バッテリーの充電可能容量が目減りしてしまい、バッテリーでの駆動時間が短くなる場合があります(これをバッテリーのメモリ効果といいます)。

また、ご購入直後や長期間ご使用にならなかった場合、バッテリーの性能が一時的に低下することがあります。また、バッテリー充電ランプが消えてしばらくしても残量表示が95%以上にならない場合は、残量表示に誤差が生じていると考えられます。

このような場合には、「バッテリーリフレッシュ」を実行すると、バッテリーパックの機能を回復させることができます。

バッテリーリフレッシュの実行

- 1** 本機を使用中の場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」で「シャットダウンする」を選んで「OK」ボタンをクリックし、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** バッテリーパックをすでに取り付けている場合は、一度バッテリーパックを本機から取り外して、再度取り付ける

バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本機に取り付ける(→p.32)
- 4** 本機の電源を入れ、「Press <F2> to Enter Setup」とメッセージが表示されたらすぐにキーボードの【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 5** 【ESC】を押す
「終了(Exit)」メニューが表示されます。
- 6** 「バッテリーリフレッシュ(Battery Refresh)」を選び、【Enter】を押す
「実行しますか(Refresh your battery now?)」というメッセージが表示されます。

7 「はい(Yes)」を選び、【Enter】を押す

「Refresh Battery Program Press Y to start Refresh, N to Exit ESC to shutdown system」というメッセージが表示されます。

8 キーボードからYと入力する

次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュが始まります。
バッテリーリフレッシュが完了してバッテリー内の電力がなくなると、自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。



 **チェック!!** ・バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

- ・バッテリーリフレッシュの所要時間のめやすは、本機に添付のバッテリーを使用している場合、フル充電状態で約160分、バッテリー残量8%(Windowsでバッテリー残量少の警告が表示される程度)の充電状態で約20分です。

バッテリーリフレッシュを中断するには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。

9 バッテリーリフレッシュが完了して本機の電源が切れたら、ACアダプタを接続する

バッテリーの充電が始まりますので、バッテリー充電ランプが消えて完全に充電されるまでお待ちください。

バッテリーパックの交換

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態)で使用できる時間が短くなったら、バッテリーリフレッシュ(→p.30)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

本機に取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- ・ PC-VP-WP11(ニッケル水素バッテリーパック)
- ・ PC-VP-WP10(リチウムイオンバッテリーパック)

リチウムイオンバッテリーパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリーパックを取り付けた場合よりも、バッテリー駆動時間が20%程度長くなります。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

- 使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック!! ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。

- ・ サスペンド状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。サスペンドランプが点滅しているときには、一度データを復帰させて保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

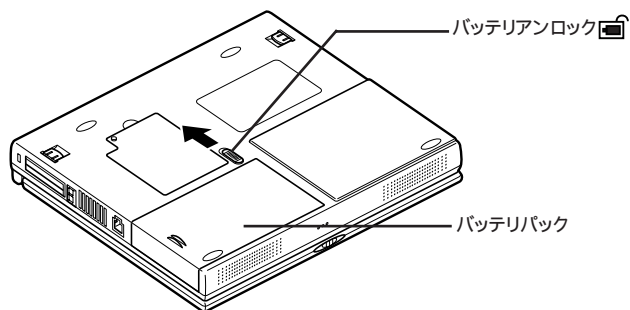
1 本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

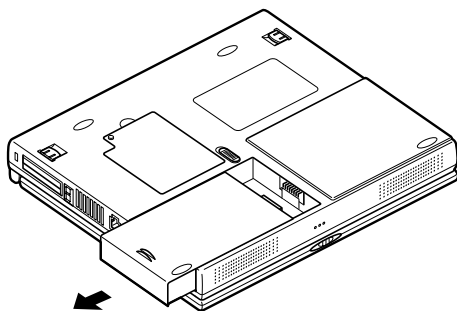
4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック^①を矢印の方向にスライドさせる

スライドさせたままの状態、そのまま次の手順へ進んでください。

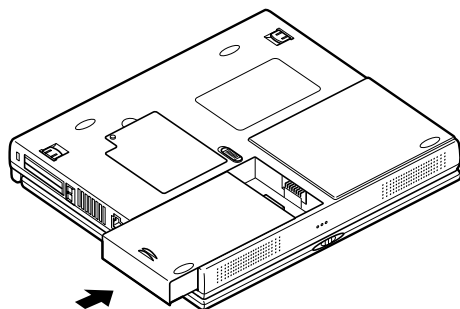


5 バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせる

バッテリーパックが外れます。



6 新しいバッテリーパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる



✓チェック!! 不要になったバッテリーパックは、地方自治体の条例に従って廃棄してください。

省電力機能

本機は、消費電力をおさえて経済的に使用することのできる、省電力機能を搭載しています。

省電力機能の種類

本機は、次のような省電力機能を搭載しています。

・スタンバイモード

液晶ディスプレイのバックライトをオフにするなど、電力消費の多い部分を節電する機能です。

キーボードやポインティングデバイスを使用するとすぐにもとの状態に戻るので、作業中に少しだけ席を外す場合などに手軽に利用できます。

・サスペンド / レジューム 機能

作業中のデータを一時的にメモリ (RAM) に保存し、消費電力をおさえる機能です。

作業内容をメモリ (RAM) に保存することを「サスペンド」または「スリープ」、作業内容を復元することを「レジューム」といいます。作業内容がメモリに保存されるので、比較的早くもとの状態に戻すことができます。

・パワーマネジメント

電力消費状態を自動的に設定する機能です。

バッテリー駆動時などに、電力の無駄な消費をおさえるために使います。「パフォーマンス優先」「省電力優先」「ユーザー設定」の3種類のモードがあります。

省電力機能は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「PowerProfiler」でPowerProfilerを起動し、「標準」のタブで設定します。

参照 ▶ PowerProfiler → PART3「PowerProfiler」(→p.92)

スタンバイモード

スタンバイモードにする

キーボードの【Fn】を押しながら【F4】を押す
一定の間何もしないと、自動的にスタンバイモードになります。
スタンバイモードのときには、画面の表示が消えます。

もとの状態に戻す

キーボードやポインティングデバイスを使う

サスペンド/レジューム機能

-  **チェック!!** ・サスペンド中にバッテリーの残量がなくなると、データが消えてしまいます。バッテリーのみで使用している場合には、サスペンドする前にバッテリーの残量を確認しておいてください。
- ・ネットワーク(LAN)に接続して通信しているときは、サスペンド機能を使わないでください。本機が正常に動かなくなることがあります。

サスペンドする

次のいずれかの方法でサスペンドすることができます。

- ・Windowsのスタートメニューから「サスペンド」をクリックする
- ・液晶ディスプレイを閉じる

サスペンド状態になると、サスペンドランプが緑色に点滅します。

また、PowerProfilerで設定しておく、他の方法でサスペンドすることができます。詳しくは、PART3「システムの設定」をご覧ください。

**チェック!!**

- ・ Windowsのスタートメニューに「サスペンド」コマンドが表示されていない場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「PowerProfiler」の「標準」タブをクリックし、「スタートメニューへ [サスペンド] コマンドを表示」を ☒ (オン) にしてください。
- ・ 次のようなときは、サスペンドしないでください。正しくレジュームできないことがあります。
 - ・ プリンタへ出力中
 - ・ 赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
 - ・ 電話回線を使って通信中
 - ・ LANに接続して通信中
 - ・ 音声または動画を再生中
 - ・ ハードディスク、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクにアクセス中
 - ・ システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
 - ・ Windowsの起動 / 終了処理中
 - ・ サスペンド機能に対応していないアプリケーションを使用中
 - ・ サスペンド機能に対応していないPCカードを使用中
- ・ サスペンド機能を実行してから本機がサスペンド状態に入るまでの間は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。正しくサスペンドできなくなることがあります。
- ・ サスペンドランプ点滅中に、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、正常にレジュームできなくなることがあります。

レジュームする

次のいずれかの方法でレジュームすることができます。

- ・電源スイッチを押す
- ・液晶ディスプレイを開く



チェック!!

- ・サスペンド状態にしてからすぐにレジュームするときは、本機に負担がかからないよう、サスペンドランプが点滅した状態で5秒以上たってからレジュームしてください。
- ・サスペンドランプ点滅中に、PCカードの入れ替えや、周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常にレジュームできなくなることがあります。
- ・CD-ROMドライブにフォトCDを入れたままサスペンドした場合、レジュームに時間がかかることがあります。

設定を行えば、次のような方法でレジュームすることができます。

レジュームする方法	設定方法
モデムリングでレジューム	BIOSセットアップメニューの「省電力管理 (Power)」 →「モデムリングによるレジューム (Resume On Modem Ring)」を「オン (On)」に設定
時刻設定によるレジューム	BIOSセットアップメニューの「省電力管理 (Power)」 →「レジューム時刻 (Resume On Time)」を「オン (On)」に設定

また、PowerProfilerで設定しておく、上記以外の方法でレジュームすることもできます。詳しくは、「PART3 システムの設定」の「PowerProfiler」をご覧ください。

パワーマネジメント

モードの種類と切り替え方

パワーマネジメントには次の各モードがあります。
設定されているモードがどのモードかは、PowerProfilerを起動すると確認することができます。また、モードの切り替えもPowerProfilerを使って行うことができます。

モード	機能
パフォーマンス優先	節電をしながら高性能で使いたいときに選びます。節電効果はやや低めです。
省電力優先	性能を抑えることにより節電効果を高めたいときに選びます。
ユーザー設定	節電する機能を自分で選ぶことができるモードです。どの機能を使うかは、PowerProfilerで設定します(→p.95)。

:ご購入時の設定(バッテリー駆動時のみ有効)

 参照 ▶ パワーマネジメント→PART3「システムの設定」(→p.95)

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するため、パスワード機能が搭載されています。

✓チェック!! セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。セキュリティ機能は、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」で設定します(→ p.106)

パスワード

・ ユーザパスワード

日常的に本機を使用する人のためのパスワードです。

・ スーパーバイザパスワード

システム管理者など、本機の運用を管理する人のためのパスワードです。

✓チェック!! 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。

参照 NECのお問い合わせ先 → 『NEC PC あんしんサポートガイド』または『メンテナンス&サポートのご案内』

パスワードの解除処置を依頼されるときは、次のことをご確認ください。

- ・ パスワード解除処置は保証期限内でも有償です。
- ・ パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。

- ・ パスワード解除処置を依頼されるときには、次のものをすべてご用意ください。
 1. 本機の購入を証明するもの(保証書など)
 2. 身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)
 3. 印鑑
- ・ パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただく必要があります。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応しかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

セキュリティ機能の使用例

セキュリティ機能は、本機の使用状況に合わせて次のように利用できます。

日常的な使用者以外が本機の設定を管理したい場合

本機を日常的に使用している人とは別の人が本機の設定をしたい場合、はじめに管理者がユーザパスワードとスーパーバイザパスワードの両方を設定しておき、ユーザパスワードのみを各利用者に通知します。この機能を使うと、管理者以外はBIOSセットアップメニューのパスワードに関する設定を変更することができなくなります。

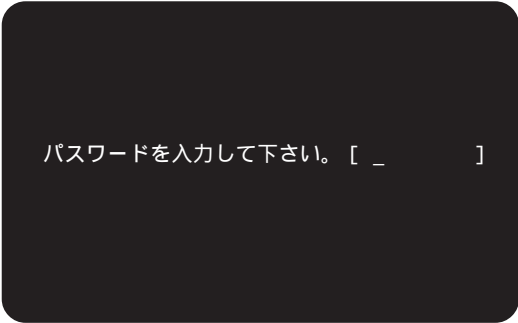
使用者が本機の設定を管理したい場合

本機を日常的に使用する人がBIOSセットアップメニューのパスワードに関する設定も自由に行いたい場合、使用者がスーパーバイザパスワードを設定します。この機能を使うと、使用者以外には本機の起動やBIOSセットアップメニューの設定変更ができなくなります。

パスワードを設定しているときの電源の入れ方

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ(Security)」の「起動時のパスワード(Password on boot)」が「使用する(Enabled)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 本機の電源を入れるとパスワードを入力する画面が表示される



パスワードを入力して下さい。[_]

- 2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

 **チェック!!** 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチを押して電源を切ったあと、再度手順1からやり直してください。

パスワードを設定しているときのスリープからの復帰

パスワードが設定されているときは、次の手順でスリープ状態から復帰させることができます。

1 電源スイッチを押す

PASSWORDと書かれた鍵穴の絵が表示されます。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

✔ **チェック!!** ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、スリープから復帰します。

✔ **チェック!!** 誤ったパスワードが入力されると、スリープから復帰できません。



赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線
でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通
信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行うまえに

本機は出荷時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていま
せん。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。ここでは、内
蔵の赤外線ポートを検出して赤外線ドライバを自動的にインストールします。

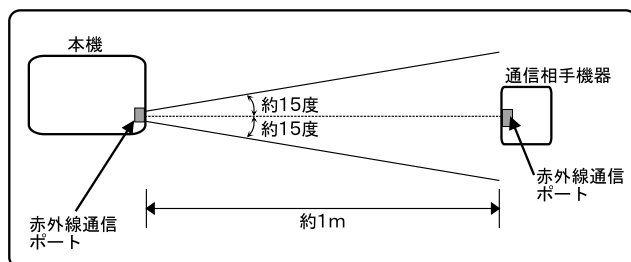
赤外線通信機能を利用するための準備

赤外線通信機能を利用するには、次の手順にしたがって設定を行う必要が
あります。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→ p.99)
- 2** 「詳細(Advanced)」→「周辺機器設定(I/O Device Configuration)」
を選んで【Enter】を押す
- 3** 「赤外線ポート(Infrared port)」を「自動(Auto)」が「使用する
(Enabled)」のどちらかにする
「使用する」を選んだ場合は、続けて「モード(mode)」「I/Oベースアド
レス(Base I/O address)」「DMAチャネル(DMA channel)」を設
定してください。
- 4** BIOSセットアップメニューを終了し、本機を再起動する
「SMC IrCQ Infrared Communications Controller」が検出さ
れ、赤外線ドライバが自動的にインストールされます。
「システム設定の変更」の画面が表示されます。
- 5** 「はい」ボタンをクリックする
本機が自動的に再起動します。
これで、赤外線通信をするための準備ができました。

機器の配置について

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。



- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

機器を配置するときの注意

- ・ 赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
- ・ 通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
- ・ 互いの機器どうしを接続させない



チェック!!

通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かないときや通信相手機器の通信可能距離が本機より短い(本機の場合は約1m以内)ときは、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面に向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

こんなときは通信可能距離が短くなってしまうことがあります。

- ・ 直射日光や蛍光灯の直下
- ・ 機器どうしが正しく向き合っていない
- ・ 他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
- ・ 本機の赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えているとき

サウンド機能

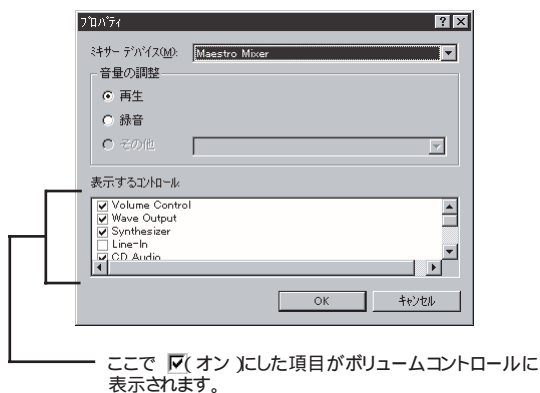
ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロール画面を表示するには「スタートボタン」→「プログラム」→「アクセサリ」→「マルチメディア」→「ボリュームコントロール」をクリックします。



- ✓チェック!!** ディスプレイが低解像度の場合にボリュームコントロールを表示すると、ボリュームコントロールの全ての音源コントロールが表示されない、または右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。
- この場合には、ディスプレイの解像度を変更するか、「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
- なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

メニューバーの「オプション」→「プロパティ」で「プロパティ」ウィンドウを開き、「再生」「録音」のいずれかを選択すると、表示項目を切り替えることができます。



内蔵モデム（FAXモデム内蔵モデルのみ）

内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

- ・ モジュラージャック式

本機に付属のモジュラーケーブルで接続できます。

- ・ 3ピンプラグ式コンセント

市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

- ・ 直結配線方式

モジュラー式コンセントに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

✓チェック!! 内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

電話回線を接続する

⚠警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

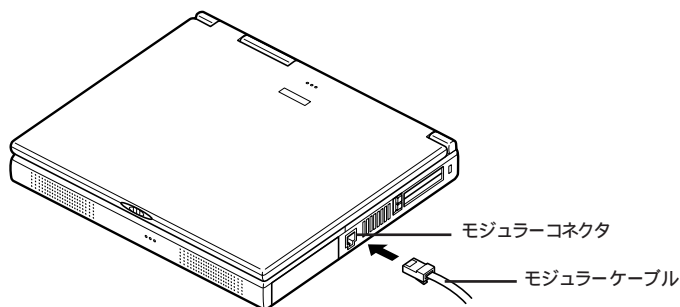
⚠注意



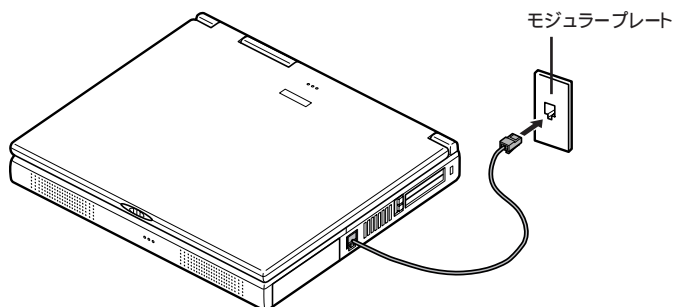
感電注意

- モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 1 本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 電話機のモジュラーケーブルをモジュラーコンセントなどから取り外す
- 4 本機のモジュラーコネクタのカバーを開け、付属のモジュラーケーブルの一方を本機のモジュラーコネクタに接続する



- 5 モジュラーケーブルのもう一方をモジュラープレートなどに接続する



ダイヤル設定の仕方

✓ **チェック!!** FAXモデムが内蔵されていない場合は、モデムのインストールが必要です。

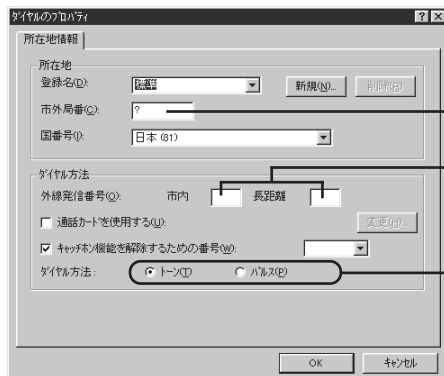
- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「モデムのプロパティ」ウィンドウ下段の「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックする

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
必要な項目を確認して、設定してください。



「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する

内線電話から外線へ接続する場合には必ず入力する

プッシュ回線を使用するときは「トーン」ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

通信機能使用上の注意

- ・ 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・ 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・ 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れてしまいます。
- ・ コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・ 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・ 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C: ¥WINNT¥ATCREAD.DOC



ネットワーク通信機能（LAN内蔵モデルのみ）

LAN回線を接続することで、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

初めて100BASE-TXネットワークを設置される方へ

100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。

他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

100BASE-TXネットワークの端末を増設される方へ

すでに100BASE-TXネットワークを設置されている方は、次の機器を用意してください。

- ・100BASE-TX用HUB(8ポート)(PC-9868-41)
- ・リンクケーブル(PC-9868-28/29)(5/10m)

10BASE-Tネットワークの端末として使用される方へ

既存の10BASE-Tネットワークに接続することで、10BASE-Tネットワークの端末として本機を使用することができます。

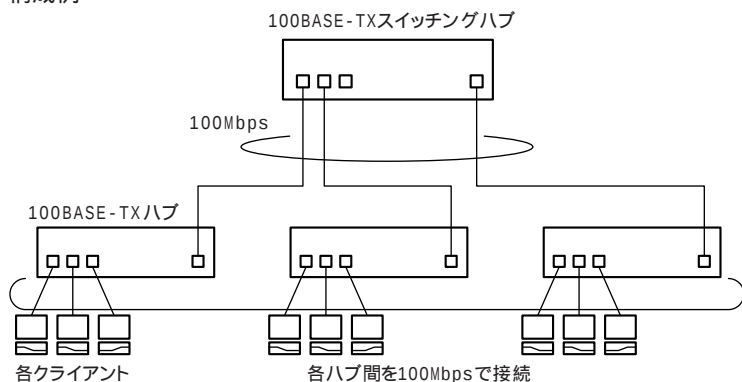
100BASE-TXの概要

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のHUBを変更するだけで、高速化がはかれます。

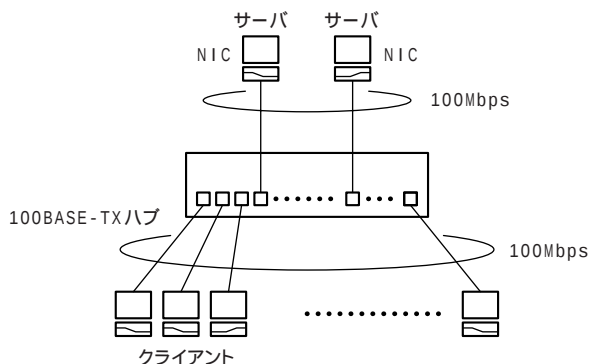
100BASE-TXのアクセス制御方式には、10BASE-Tと同様のCSMA/CD (Carrier Sense Multiple Access with Collision Detection:搬送波感知多重アクセス/衝突検出)を採用し、IEEE(米国電気電子技術者協会)802.3で標準化が進められました。

また、伝送媒体には、カテゴリ5のUTPリンクケーブルを使用することで、高速、高品質のデータ転送を実現しています。

構成例



基幹LANの100Mbps化の例



サーバのビッグパイプ化(100Mbps)の例

リンクケーブルについて

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

本機に内蔵されているLAN インターフェイスは、100Mbps で動作する100BASE-TX 基準を満たしています。

100BASE-TX(100Mbps)で使用する際には、必ずカテゴリ5(CAT5)のケーブルを使用してください。

10BASE-T(10Mbps)で使用する際には、カテゴリ3、4、5のケーブルを使用してください。

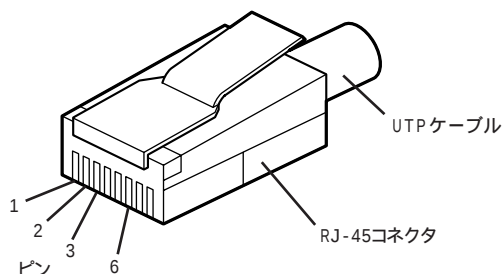


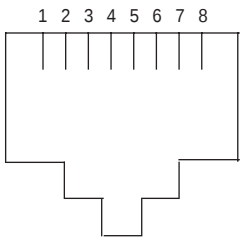
UTPケーブル

使用可能なUTPケーブル

特性	仕様
ケーブルタイプ	非シールドより対線
コネクタ	RJ-45コネクタ2個
ケーブル最低品質	Electronics Industries Association/Telecommunication Industries Association(EIA/TIA)-568のカテゴリ5またはそれと同等レベル(100Mbps使用時)

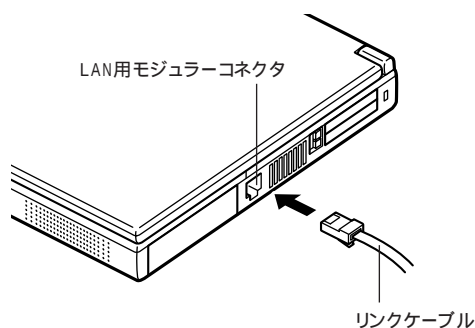
コネクタ形状



端子番号	信号名	ピンコネクション
1	T D +	
2	T D -	
3	R D +	
4	-	
5	-	
6	R D -	
7	-	
8	-	

ネットワークへの接続

- 1 リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタに、奥までしっかり差し込みます。



- 2 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続します。
ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

ユニバーサル管理アドレス

ユニバーサル管理アドレスは、IEEEで管理されているアドレスで、主にマルチベンダネットワーク構築や他のネットワークに接続するときなどに使用します。

ユニバーサル管理アドレスは、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して確認することができます。

```
NET CONFIG WORKSTATION 【Enter】
```

(「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の()内に表示されます。)

運用上の注意

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続作業をすることで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、本機を再起動してネットワークの接続をやり直してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・ネットワーク(LAN)に接続して通信しているときは、サスペンド状態にしないでください。本機が正常に動かなくなることがあります。

100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

周辺機器を使う

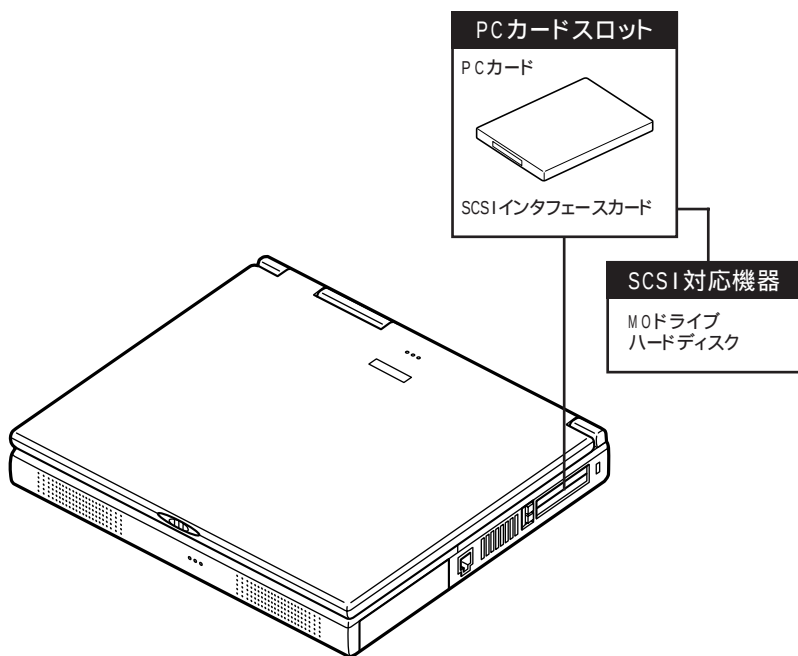
別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

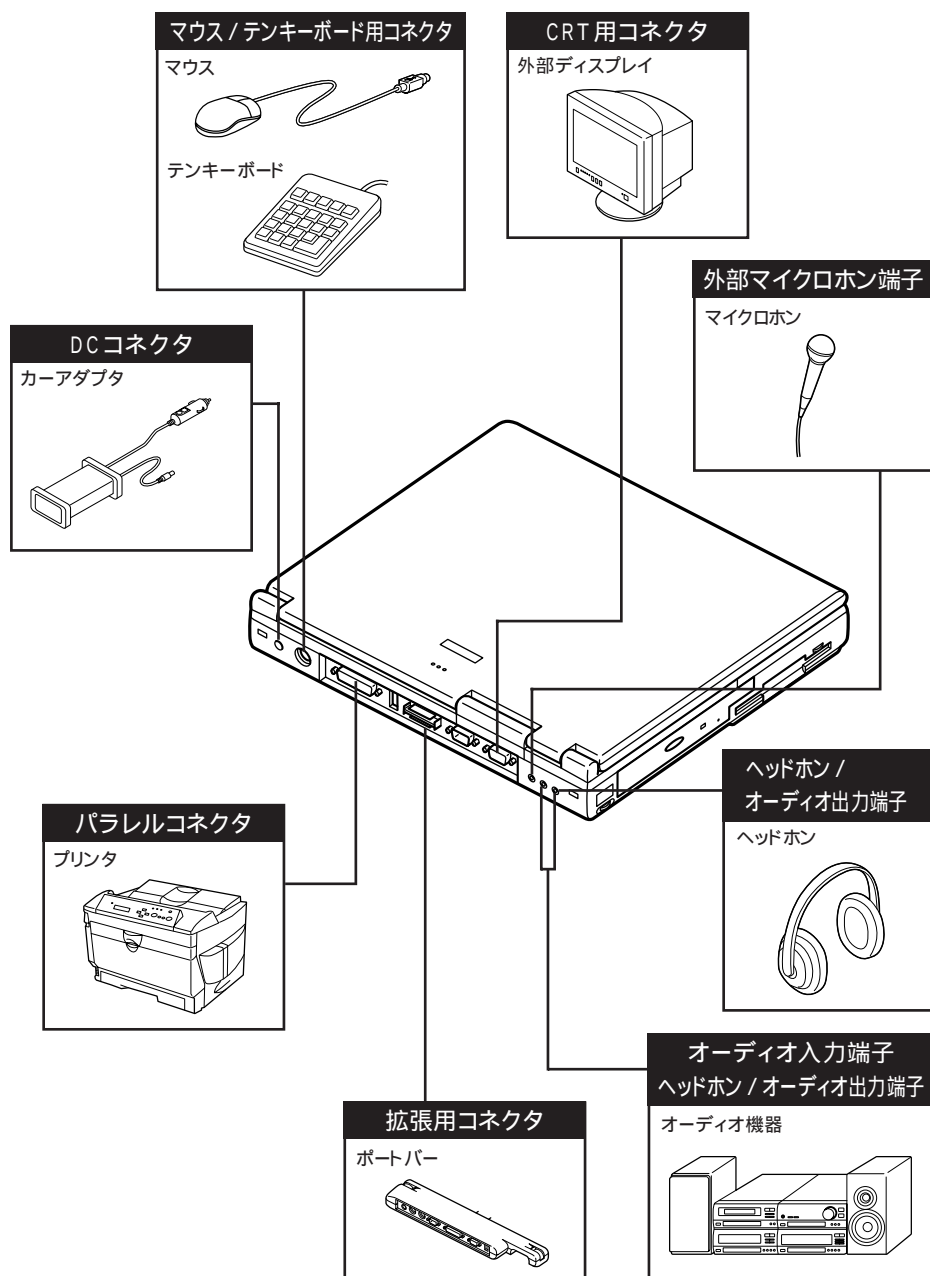
このPARTの内容

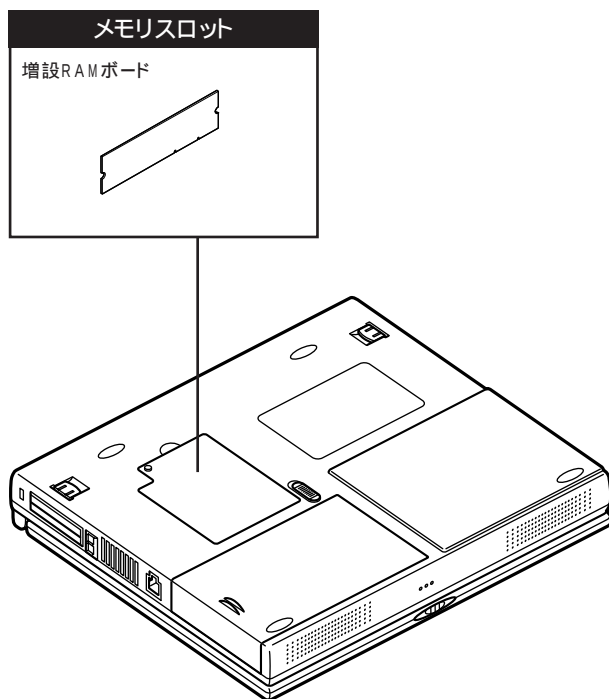
- 接続できる周辺機器
- 周辺機器を利用する
- プリンタを使う
- 外部ディスプレイを使う
- PCカードを使う
- メモリ(RAM)の増設
- ポートバーを使う
- その他の機器を使う

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。







周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています(→p.58, 59, 60)。

用語 ポート

周辺機器や外部のコンピュータと本機との間で信号(データ)をやり取りするための「窓口」となるのがポートです。やり取りする信号(データ)を船荷に例え、それらを積み降ろしする港(ポート)に例えてこの名前が付いています。Windows NTのCOM1ポートは本機のシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器を利用するための知識

警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

注意



感電注意

- 周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。
- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- 本機がサスペンド状態のときは、周辺機器の取り付けや取り外しをしないでください。本機がサスペンド状態のときは、本機を元の状態に戻し、データを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。

- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。

周辺機器のドライバについて

周辺機器を使うには、本機と周辺機器の仲介をする「デバイスドライバ」と呼ばれる周辺機器専用のソフトウェアを、本機にセットアップする（組み込む）必要があります。

ドライバの機能やセットアップ方法、問い合わせ先については、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

新しいコンポーネントを追加または変更した場合は、再度Service Pack3をインストールする必要があります。インストール方法など詳しくは、Service Pack3のCD-ROMのルートディレクトリにあるREADME.TXTをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。



チェック!!

ドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度ドライバを正しく組み込んでください。

電源を入れる / 切るときの順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

電源を切るとき

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

また、プリンタを接続しているときは、次の順序で行ってください。

電源を入れるとき

プリンタ以外の周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる → プリンタの電源を入れる

電源を切るとき

プリンタの電源を切る → 本機の電源を切る → プリンタ以外の周辺機器の電源を切る

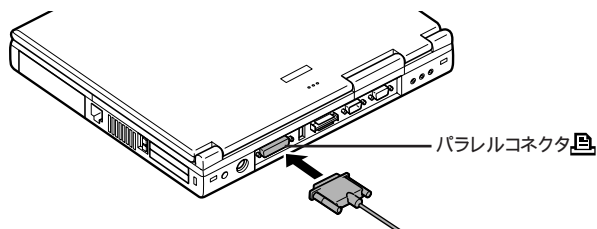
プリンタを使う

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

プリンタを接続する

本機とプリンタとを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。

- 1 本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 本機の平行コネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む

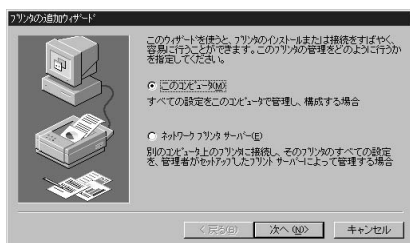


- 4 プリンタケーブルの大きい方のコネクタをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。
- 5 プリンタの電源ケーブルと本機の電源コードをACコンセントに接続する

プリンタを設定する

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウィンドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

- 1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源がONになっていることを確認する
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。
- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。



- 4 「このコンピュータ」を選択して、「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選択する



- 5** 「次へ」ボタンをクリックすると、表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元、次に使用するプリンタ機種(または互換性のある機種)を選択する

Windows NT 4.0のドライバディスクがある場合は、「ディスク使用」をクリックしてドライバのインストールを行ってください。

- 6** 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ」欄に使用するプリンタの名前を付けて「次へ」ボタンをクリックする
この欄には手順5で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

- 7** このプリンタを共有しないプリンタとして登録する場合は、下欄の「次へ」ボタンをクリックする

- 8** 「次へ」ボタンをクリックすると、テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示される

「はい(推奨)」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。

- 9** 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする
今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

手順5でインストールしなかった場合やインストールが必要な場合は、ここで「ディスクの挿入」画面が表示されますので、プリンタのマニュアルをご覧のうえ、指定されたディスクをセットしてください。設定がすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。

ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。

設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

- 1 「プリンタを設定する(→P.65)」の手順1～3を行う
- 2 「ネットワークプリンタサーバ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックすると次の画面が表示される



- 3 「プリンタ」にネットワークパス名または使用するプリンタ名を入力する
「共有プリンタ」をクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタを表示されるので、そこから選択することもできます。
- 4 「OK」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う

外部ディスプレイを使う

本機にCRTディスプレイやプロジェクタを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイを接続する

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数 (KHz)	垂直走査 周波数 (Hz)	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640 × 480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800 × 600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024 × 768	48.4	60	○	○	×
	56.5	70	○	○	×
	60.0	75	○	○	×

○ : 表示可能

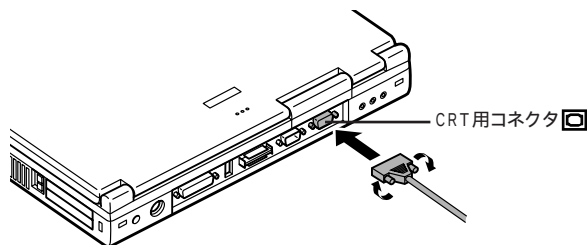
× : 表示不可能



チェック!!

お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

- 1 本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 ディスプレイ用ケーブルを本機のCRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する



- 4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

프로젝터를接続する

液晶 프로젝터와解像度について

別売의液晶 프로젝터를사용する場合は、接続する前に次の表を参考にして表示解像度などを確認してください。

表示解像度 (ドット)	走査周波数		프로젝터모델		
	水平 (kHz)	垂直 (Hz)	ViewLight X1020	ViewLight S820/MB800	ViewLight V620
640 × 480	31.5	60.0	○	○	○
	37.5	75.0	○	○	○
800 × 600	37.9	60.3	○	○	○
	46.9	75.0	○	○	×
1,024 × 768	48.4	60.0	○	○	×
	60.0	75.0	○	○	×

○ : 表示可能

× : 表示不可

詳しくは、프로젝터의マニュアルをご覧ください。

外部ディスプレイの設定

表示ディスプレイの切り替え

キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押すと、キー操作で簡単に画面の出力先の切り替えを行うことができます。

参照 ホットキー機能について → PART1の「キーボード」(p.7)

PCカードを使う

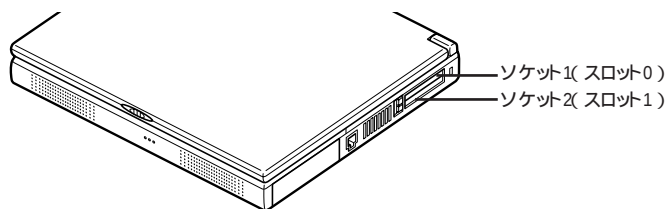
本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

用語 PCカード

PCカードとは、社団法人日本電子工業振興協会(JEIDA)とPCMCIAとの間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモ리카ードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカードもあります。

PCカードスロットについて

TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。



チェック!! Windows NT 4.0はZVポートには対応していません。

PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないIPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

PCカードのセットのし方と取り出し方

△注意



- 本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。



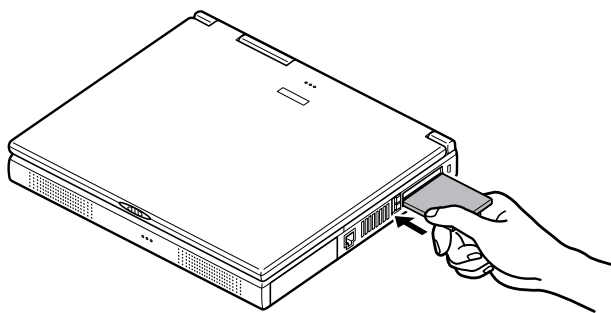
チェック!!

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ PCカードのセットや取り出しは、本機の電源を切ってから行うようにしてください。
- ・ 本機がサスペンド状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・ アプリケーション使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードのセットのし方

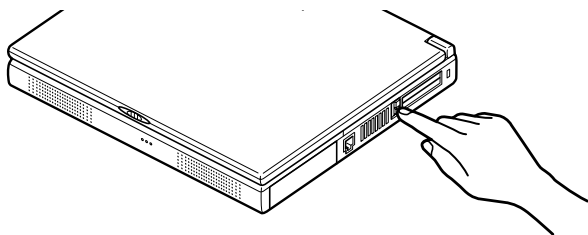
1 本機の電源を切る

2 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

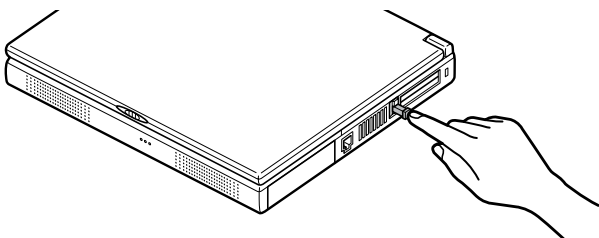


1 本機の電源を切る

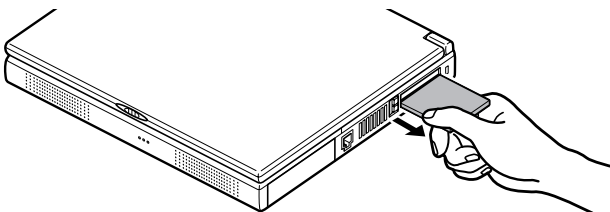
2 イジェクトボタンを押す
ボタンが手前にとび出します。



3 もう一度イジェクトボタンを押す



4 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く



PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

FAXモデムカードのIRQを変更する

赤外線通信または、他のドライバでIRQ3を使用している場合は、FAXモデムカードのIRQの変更が必要になります。次の手順で変更してください。

 **チェック!!** CardWizard for Windows NTをセットアップした場合には、以下の手順は必要ありません。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「シリアルポート」をダブルクリックする

2 FAXモデムカードに割り当てられたポートを選択し、「設定」ボタンをクリックする

「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」で、FAXモデムカードがどのCOMポートに割り当てられているかを確認できます。

 **チェック!!** 「デバイスマップ」に「利用不可」と表示された場合は、以下の手順でCOMポートを追加してください。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「シリアルポート」をダブルクリックする

「追加」ボタンをクリックする

「新しいポートの詳細設定」画面で、「COMポートの番号」、「I/Oポートアドレス」、「割り込み番号」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

手順5へ進む

3 「COMx: の設定」画面で「詳細」ボタンをクリックする

4 「COMx: の詳細設定」画面で「割り込み番号」を変更し、「OK」ボタンをクリックする

本機でFAXモデムカードが使用できるIRQは9と11です。xはFAXモデムカードに割り当てられた番号です。

- 5 再起動を促すダイアログが表示されたら、「再起動しない」をクリックする
- 6 「COMx:」の設定画面で「OK」または「閉じる」ボタンをクリックする
- 7 「閉じる」ボタンをクリックする
- 8 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 9 「名前」に「c:\nt40\drivers\reg」と入力して「OK」ボタンをクリックする
FAXモデムカードレジストリ設定ツールが起動します。
- 10 「Serialxxxxx」と表示されたら、xxxxxの部分が一番大きい値の項目を選ぶ（初期値では一番大きい値が選択されている）
- 11 「OK」ボタンをクリックする
レジストリが書き換えられ、FAXモデムカードレジストリ設定ツールは終了します。

次回起動時より、設定 / 変更内容が有効になります。



チェック!! FAXモデムカードレジストリ設定ツールはレジストリを操作するため、使用方法を誤ると重大な障害が発生する可能性があります。使用に際しては、十分注意してください。またレジストリのバックアップをとっておくことをお勧めします。

ATAカードの使用について

ATAカードを使用する場合、ATAカードのドライブ文字がCに割り当てられている場合があります。アプリケーションの起動などができなくなることがあります。このような場合は、次の手順で、「Atdisk」のスタートアップの種類を「ブート」から「システム」に変更してください。

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする
- 2** 「デバイス」アイコンをダブルクリックする
- 3** デバイスの一覧から「Atdisk」を選び、「スタートアップ」をクリックする
- 4** スタートアップの種類を「システム」に変更して「OK」ボタンをクリックする
- 5** 「Atdiskデバイスのスタートアップの種類を変更すると、システムは使用不能になる可能性があります。変更してもよろしいですか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする
- 6** 「閉じる」ボタンをクリックする
「デバイス」が終了します。
- 7** コントロールパネルを閉じる
- 8** Windows NTをシャットダウンして、本機を再起動する

再起動後に、変更した設定が有効になります。

割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPATR4 付録の「割り込みレベル・DMAチャンネル」をご覧ください。割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

PCカードデバイスドライバのインストール

PCカードのデバイスドライバは、PCカードに添付のマニュアルやWindows NTのヘルプなどをご覧ください。インストールを行ってください。

PC カードの一覧に赤い × の付いたアイコンが表示されている場合は、Windowsがそのデバイスに対応していないか、またはドライバが利用できないことを示します。詳細については、デバイスの製造元に問い合わせてください。

PCカードのリソースの設定を表示する

PCカードのリソースの設定を表示するには、次の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「PCカード(PCMCIA)」をダブルクリックする
- 2 目的のPCカードをクリックする
- 3 「プロパティ」をクリックして、「リソース」タブをクリックする
PCカードのリソースの変更については、PCカードに添付のマニュアルなどをご覧ください。

Windows NT診断プログラムでリソースの設定を表示する

Windows NT診断プログラムでリソースの表示ができます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT診断プログラム」をクリックする
- 2 「リソース」タブをクリックしてリソースの内容を確認する

CardBus対応PCカードの利用

CardBus対応PCカードを使用する場合は、CardWizard for Windows NTのインストールが必要です。

また、本機でPC-9821-CS01Xを使用する場合は、Windows NTのReadmeファイルをご覧ください。

-  **チェック!!** CardWizard for Windows NTは、購入時にはインストールされていません。CardWizard for Windows NTを使用する場合は、後述の「CardWizard for Windows NTの追加」をご覧ください、セットアップを行ってください。

起動手順

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」をクリックする

-  **チェック!!**
- CardWizard for Windows NT上では、PK-UG-J001(マルチファンクションカード)は使用できません。使用する場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」にある「PC Card Activator」をクリックし、PC Card Activator画面の「CardWizardを使用不可にする」ボタンをクリックし、CardWizardを使用不可にしてから使用してください。
 - 使用可能なPCカードについては、CardWizard for Windows NTのオンラインヘルプおよびReadmeをご覧ください。
 - 後述の追加および削除を行う場合は、Administrator 権限を持ったユーザで行ってください。
 - 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「PCカード(PCMCIA)」のアイコンは使用できなくなります。
同アイコンをクリックすると正しい情報が表示されないことがあります、PCカードの動作上は問題ありません。
 - PCカードをスロットから取り出す場合は、必ずCardWizardの「アクション」→「停止」を行ってから取り出してください。
 - ネットワークカードで、ホットスワップ(コンピュータの電源が入っている状態でスロットにPCカードを挿入あるいはスロットから取り出すこと)を行うためには、ホットスワップ・テストを行う必要があります。

ホットスワップ・テストは、ネットワークカードのセットアップを行った後、以下の手順で行ってください。

- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」→「CardWizard for Windows NT」をクリックし、CardWizardを起動します。
- CardWizardの「アクション」→「ウィザード」または「Wizard」ボタンをクリックします。
- 「ウィザード」画面の「テスト」ボタンをクリックします。
- 「ホットスワップ機能のテスト」画面の「OK」ボタンをクリックします。

CardWizard for Windows NTの追加

 **チェック!!** 本機にPCカードが挿入されていないことを確認してください。PCカードが挿入されている場合は、Windows NTを終了し、本機の電源を切ってPCカードを抜いてから再起動してください。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」をクリックする
- 2** キーボードから次のように入力して、【Enter】を押す
C: ¥NT40 ¥CARDWIZ ¥SETUP
- 3** 「CardWizard for Windows NTのセットアップ」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
- 4** 「ようこそ」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
- 5** 「質問」画面で、PCカードが本機に挿入されていないことを確認するメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
- 6** 「インストール先を選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする

 **チェック!!** インストールするディレクトリは、特に必要のない限り、変更しないで既定値のままにしてください。

ファイルのコピーが終了すると「READMEファイルを、いま表示しますか?」というメッセージが表示されます。

7 「はい」ボタンをクリックする
README ファイルを参照したら、ファイルを閉じてください。

8 「コンピュータをリスタート」画面が表示されるので、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択し、「終了」ボタンをクリックする
自動的に再起動します。

CardWizard for Windows NTの削除

 **チェック!!** 本機にPCカードが挿入されていないことを確認してください。PCカードが挿入されている場合は、Windows NTを終了し、本機の電源を切ってPCカードを抜いてから再起動してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「CardWizard for Windows NT」にある「CardWizard for Windows NTインストール解除」をクリックする

2 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリックする

3 「セットアップが CardWizard for Windows NTを取り除きました」画面が表示され、画面にアンインストールが完了したことが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
自動的に再起動します。

メモリ(RAM)の増設

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に立ち上げたり、大きなデータをより高速に扱うことができます。

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M012	32M バイト
PK-UG-M013	64M バイト
PK-UG-M014	128M バイト

増設RAMボードの取り付けと取り外し

⚠ 注意



感電注意

- 増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

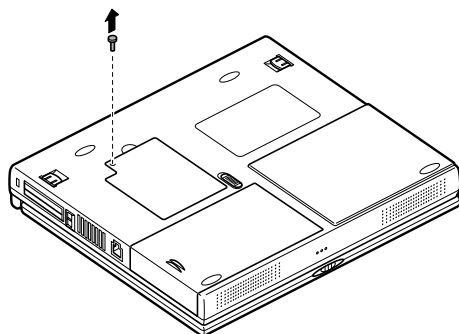


チェック!!

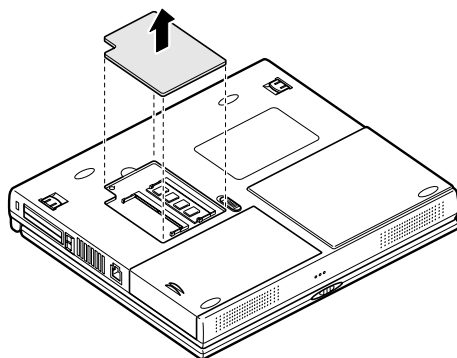
- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

増設RAMボードの取り付け方

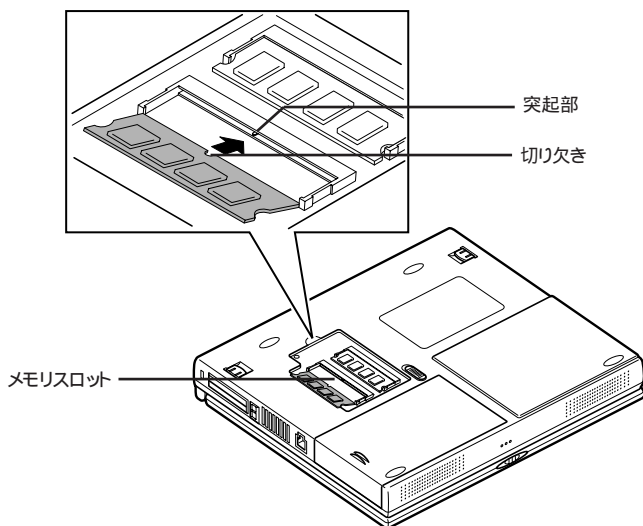
- 1** 本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4** バッテリーパックを本機から取り外す(→ p.32)
- 5** 図のネジをプラスドライバで取り外す



- 6** メモリスロットのカバーを取り外す

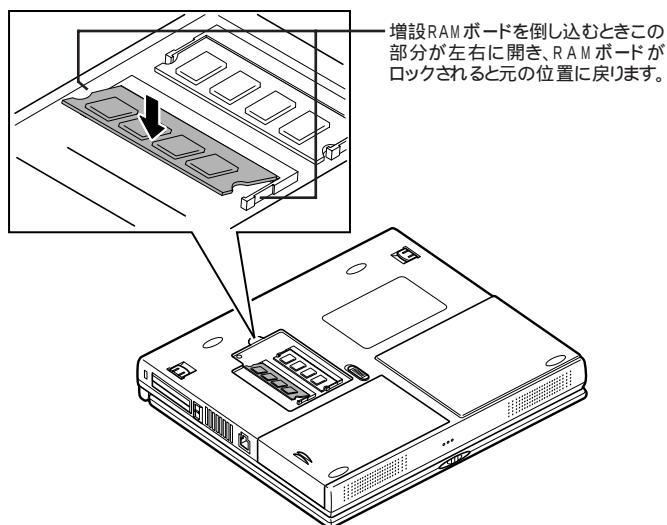


- 7 増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する
(実物はイラストと多少異なる場合があります)



メモリスロットには、あらかじめメモリボードが取り付けられています。メモリを最大容量(256Mバイト)に増設する場合は、取り付けられているメモリボードを取り外して、128Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けてください。

8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む



9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

10 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

11 本機の電源を入れる

メモリ増設後は、「増設したメモリ(RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「全般」タブで確認する

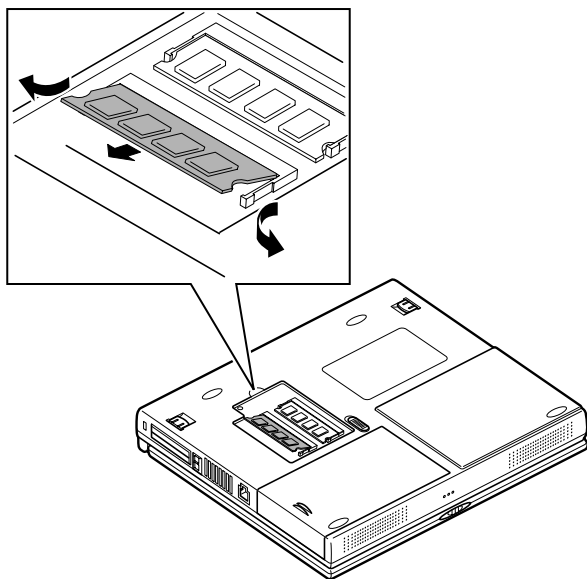
メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・ 本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

✓チェック!! システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合があります。

増設RAMボードの取り外し方

- 1** 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～6に従って、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2** コネクタの両端部分を左右に押し広げながら、増設RAMボードを斜めに引き抜く



- 3** メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける
- 4** バッテリーパックを取り付ける

ポートバーを使う

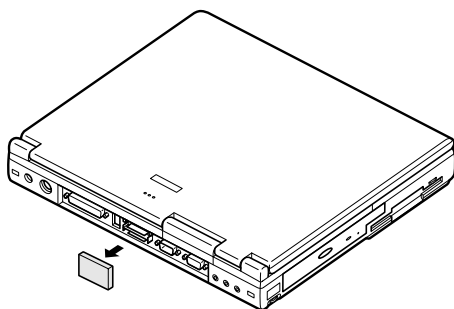
別売のポートバー(PC-VP-WU04)を利用すると、本機を携帯して使用するときに毎回、接続してあるすべての周辺機器の取り付け/取り外しを行わなくても、ポートバーの取り付け/取り外しのみで済むので便利です。

ポートバーの取り付け方と取り外し方

本機では、電源が入った状態でポートバーの取り付け / 取り外しができます。

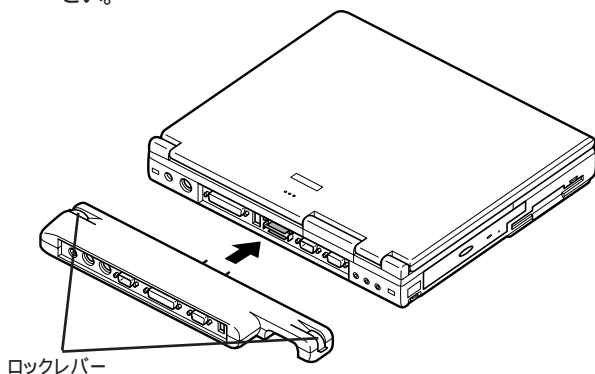
ポートバーの取り付け方

1 拡張用コネクタのカバーを取り外す

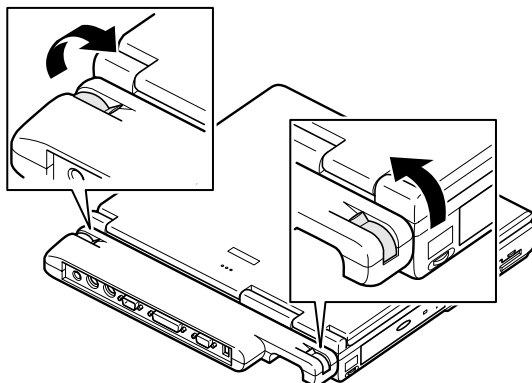


2 コネクタの向きに注意して、ポートバーを本機の拡張用コネクタに取り付ける

このときに、ロックレバーが図の位置(外側)にあることを確認してください。

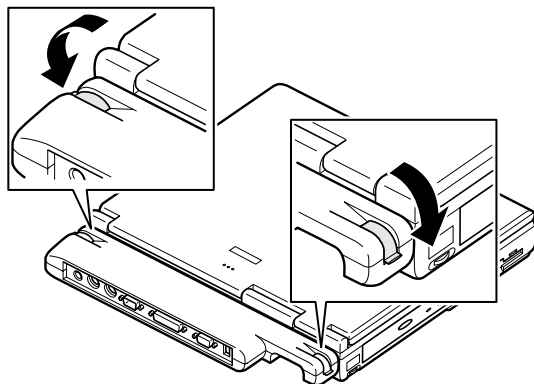


3 ポートバーの両端にあるロックレバーを図のように内側に倒す

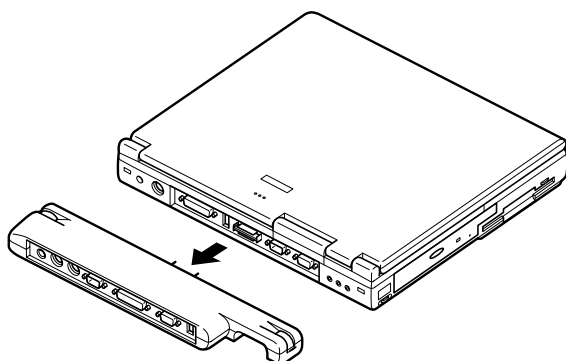


ポートバーの取り外し方

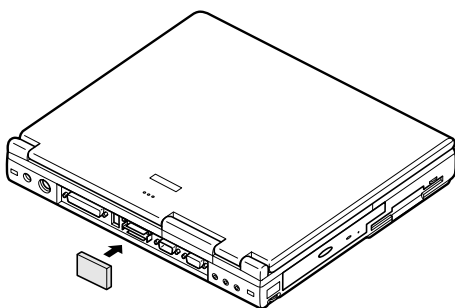
1 ポートバーの両端にあるロックレバーを図のように外側に倒す



2 ポートバーを本体の拡張用コネクタから取り外す



3 拡張用コネクタにカバーを取り付ける



その他の機器を使う

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

チェック!! 本機がサスペンド状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼ばれています。

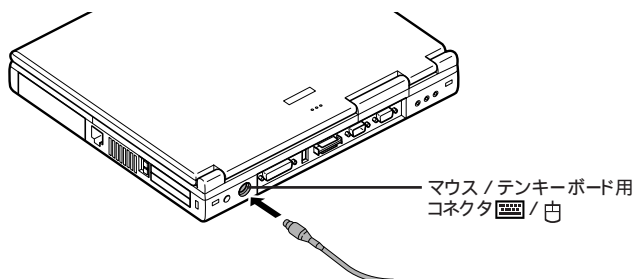
パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

マウス / テンキーボード用コネクタ

別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプのオプションを取り付けるためのコネクタです。

- ✓ **チェック!!** マウスやテンキーボードを接続するときは、必ず、「スタート」ボタン・「シャットダウン」で本機の電源を切ってから接続してください。



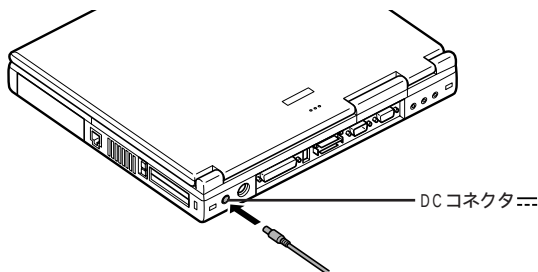
マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したいときは、別売のYケーブル、またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

DCコネクタ

添付のACアダプタの他に、カーアダプタ (PC-VP-WP05) を接続することができます。

カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。

- ✓ **チェック!!**
- ・カーアダプタを接続する場合は、必ず本機の電源を切ってから接続してください。
 - ・車が走行しているときには本機の電源を入れないでください。振動 / 衝撃などによって本機が故障するおそれがあります。



システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。

また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

このPARTの内容

PowerProfiler

BIOSセットアップメニュー

PowerProfiler

PowerProfilerでは、サスペンド、レジューム、バッテリー管理、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

PowerProfilerで設定できること

- ・ 省電力
タイマ / デバイスコントロールの設定
- ・ サスペンド
サスペンドの設定
- ・ レジューム
レジュームの設定
- ・ バッテリ
バッテリーの表示などの設定

PowerProfilerを使う

PowerProfilerを起動する

「スタート ボタン」→「プログラム」→「PowerProfiler」をクリックする
「PowerProfiler」が起動します。

PowerProfilerを操作する

1 「標準」タブをクリックする



2 「パワーマネージメント」の種類を選択する

「通常」

パワーマネージメント機能は、バッテリーまたはACアダプタなど電源の種類にかかわらず有効です。パワーマネージメントタイマーおよびI/Oポートのオン / オフ設定は、このオプションが選択されている場合のみ有効です。

「バッテリーのみ」

パワーマネージメント機能は、システム電源がバッテリーの場合のみ有効です。電源がACアダプタの場合でこのオプションが選択されているときは、パワーマネージメント機能は無効です。

「オフ」

パワーマネージメントタイマーおよびI/Oポートのオン / オフ設定は、すべて無効です。

3 省電力の設定をする

4 サスペンドの設定をする

5 「詳細」タブをクリックする



6 レジュームの設定をする

7 「バッテリー」タブをクリックする



8 バッテリーの設定をする

9 設定が終了したら、「更新」ボタン、「OK」ボタンの順番にクリックする

設定項目一覧

✓**チェック!!** 設定をした後は、必ず「更新」ボタンをクリックしてください。

省電力の設定

✓**チェック!!** 本機のPowerProfilerとBIOSセットアップメニューには、それぞれ省電力に関する同等機能があります。省電力に関してはPowerProfilerでの設定が優先されますので、BIOSセットアップメニューでは「省電力」を「使用しない」に設定しておくことをおすすめします。

タイマ / デバイス コントロール

このグループには、ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM / LPTポートパワーコントロールの設定が含まれています。

✓**チェック!!** 「COM / LPT」ボタンをクリックすると、シリアル / パラレルポートの電源をオン / オフする設定がありますが、実際に電源制御することはできません。

ディスプレイタイムアウト / ハードディスクタイムアウトは、PowerProfilerの設定とBIOSセットアップメニューの設定のうち、設定時間の早い方が有効になります。

省電力優先プロファイル

 **チェック!!** このプロファイルは、ユーザーが変更することはできません。

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、あらかじめ構成された設定をロードします。

このプロファイルではデバイスがアイドル状態になってから電源を切るまでの時間が短く設定されているため、パフォーマンス優先プロファイルよりバッテリー電力を節約できます。

パフォーマンス優先プロファイル

 **チェック!!** このプロファイルは、ユーザーが変更することはできません。

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、あらかじめ構成された設定をロードします。

このプロファイルではデバイスがアイドル状態になってから電源を切るまでの時間が省電力優先プロファイルより長く設定されます。したがって、マシンをより高いパフォーマンスで使用できますが、バッテリーはより早く放電します。

ユーザー設定プロファイル

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールに、ユーザー設定値をロードします。ユーザー設定値を登録するには、設定値を「ユーザー設定への保存」を使って保存します。

ユーザー設定プロファイルの保存

ディスプレイタイムアウト、ハードディスクタイムアウト、およびCOM/LPTポートパワーコントロールの現在の設定を、ユーザー設定プロファイルに保存します。

サスペンドの設定

サスペンド

「標準」タブの「サスペンドコントロール」の「サスペンド」ボタンをクリックすると、直ちにシステムをサスペンドします。

「スタート」メニューへ「サスペンド」コマンドを表示

「標準」タブの「サスペンドコントロール」の「スタートメニューへ「サスペンド」コマンドを表示」をチェックします。

Windowsの「スタート」メニューに「サスペンド」コマンドを追加します。

レジュームの設定

電話が鳴ったらレジューム

「詳細」タブの「レジューム オプション」の「電話が鳴ったらレジューム」をチェックします。電話が鳴ったら、サスペンド状態のシステムがレジュームします。

このオプションは、PC Cardモデムを使用している場合は無効です。このオプションが淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

自動レジューム

「詳細」タブの「レジューム オプション」の「アラームが鳴ったらレジューム」をチェックします。

「時刻」と「日付」に指定された時刻になると、サスペンド状態のシステムがレジュームします。

淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

アラームでレジュームした場合にアプリケーションを起動

「詳細」タブの「レジュームオプション」の「アラームでレジュームした場合にアプリケーションを起動」をチェックします。

システムがアラーム レジュームイベントによって起動したときに、このオプションの下に表示されたボックスで指定されたアプリケーションを、自動的に起動します。

淡色表示されている場合は、この機能はシステムでサポートされていません。

バッテリーの設定

アラームアクション

このグループには、ユーザへの警告、またはローバッテリー時のシステムのサスペンドを行う場合のオプションが含まれます。

このグループのオプションは、「バッテリーの選択」で「すべてのバッテリー」が設定されている場合のみ変更できます。「すべてのバッテリー」以外が設定されている場合は、オプションは淡色表示されていて使用できません。

ローバッテリーアラームの通知

ローバッテリーが検出されると、警告メッセージが表示され、ピープ音が鳴ります。

ローバッテリーレベルは、「バッテリー状態 / アラームレベルの設定」グループの「ローバッテリーアラームスライダ」で指定します。

緊急ローバッテリーアラームの通知

バッテリー電力の極度の不足を検出した場合、警告メッセージが表示され、ピープ音が鳴ります。

緊急ローバッテリー時かどうかを判断するレベルは、「バッテリー状態 / アラームレベルの設定」グループの「緊急ローバッテリーアラームスライダ」で指定します。

緊急ローバッテリー時にシステムをサスペンド

「緊急ローバッテリーアラームの通知」が設定されている場合のみ有効です。

バッテリーの電力が極度に不足した場合に、システムをサスペンドします。

緊急ローバッテリー時かどうかを判断するレベルは、「バッテリー状態 / アラームレベルの設定」グループの「緊急ローバッテリーアラームスライダ」で指定します。

バッテリーメーターをタスクバーへ表示

「バッテリー」タブの「バッテリーメーターをタスクバーへ表示」をチェックすると、Windows のタスクバーに現在のバッテリー充電状態を示すアイコンを表示します。

- ・アイコンをダブルクリックすると、バッテリーページが表示されます。
- ・アイコンを右クリックすると、詳細アクションのポップアップメニューが表示されます。
- ・アイコンをポイントすると、バッテリーの残りの容量が表示されます。

バッテリー状態 / アラームレベルの設定

このグループには、バッテリーの残りの容量の表示とローバッテリーアラームレベルの設定を行うためのオプションが含まれています。

- ・ローバッテリーアラームスライダ
- ・緊急ローバッテリーアラームスライダ

表示モード

時間モードの選択はできません。

■ 表示モードは、パーセント表示のみです。

バッテリーの選択

本機では使用できません。

BIOS セットアップメニュー

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力の設定
- ・起動デバイスの起動順位の設定

✓チェック!! Windows NT 4.0で省電力機能をお使いの場合は「PowerProfiler (→p.92) をご覧のうえ、PowerProfilerで各設定を行ってください。

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

1 本機の電源を入れる

2 「Press <F2> to Enter Setup」とメッセージが表示されたら【F2】を押す

次のような画面が表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility			
Main	Advanced	Security	Power Boot Exit
System Time :	[hh:mm:ss]	Item Specific Help <Tab>,<Shift-Tab> or <Enter> selects field.	
System Date :	[mm/dd/yy]		
Language :	[English(US)]		
Diskette A:	[1.44/1.25MB 3½"]		
▶ Internal HDD:	[XXXXMB]		
Internal CD-ROM:	Installed		
Boot Display Device:	[Both]		
System Memory :	XXXXKB		
Extended Memory :	XXXXXXKB		
CPU Type	XXX		
CPU Speed	XXXMHz		
BIOS Version	XXX-XXXX-XXXX/XXXXXXXX		
F1 Help ↑ ↓	Select Item	F5/F6 Change Values	F9 Setup defaults
Esc Exit ← →	Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit

- 3 キーボードの【↓】を押して「 Language 」にカーソルを合わせ、
【Enter】を押す
- 4 キーボードの【↓】を押して「 日本語(JP)」にカーソルを合わせ、
【Enter】を押す
これで、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。
- 5 キーボードの【←】でメニューから「 終了 」を選ぶ
- 6 「 変更を保存して終了する 」が選ばれていることを確認して
【Enter】を押す
- 7 セットアップ確認のダイアログボックスで「 はい 」を選び【Enter】
を押す

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1 「Press<F2> to Enter Setup」とメッセージが表示されたら【F2】
を押す
次のようなメイン画面が表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
メイン	詳細	セキュリティ 省電力管理 起動 終了
システム時刻 :	[hh:mm:ss]	項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift+Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します
システム日付 :	[yy:mm:dd]	
言語 :	[日本語 (JP)]	
フロッピーディスクA:	[1.44:1.25MB 3.5"]	
▶ 内蔵HDD	[XXXXMB]	
内蔵CD-ROM	組み込み済	
起動時表示デバイス :	[両方]	
システムメモリ :	XXXXKB	
拡張メモリ :	XXXXKB	
CPUタイプ :	XXX	
CPU速度	XXXXXX Mhz	
BIOSバージョン	XXXX-XXXX-XXXX/XXXX	
F1 ヘルプ	↑ ↓ 項目の選択	F5/F6 値の変更
Esc 終了	← → メニューの選択	Enter ▶サブメニューの選択
		F9 デフォルトの設定
		F10 保存して終了

BIOSセットアップメニューの終了(変更を保存して終了する)

- 1 メイン画面で【F10】を押す
- 2 セットアップ確認のダイアログボックスが表示される
- 3 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

また、メニューバーの「終了」でもBIOSセットアップメニューを終了することができます。

メニューバーからの終了

【←】→】でメニューバーの終了を選択すると、以下のメニューが表示されます。

- 変更を保存して終了する
システムの設定を終了して、変更内容を保存します。
- 変更を保存せずに終了する
設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。
- デフォルト値をロードする
すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。
- 変更を取り消す
すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。
- 変更を保存する
設定値を保存します。
- バッテリリフレッシュ
バッテリリフレッシュは、ニッケル水素バッテリーの機能を回復させるための機能です。
バッテリリフレッシュを実行するためには、「終了」メニューから「バッテリリフレッシュ」を選びます。詳しい手順についてはp.30をご覧ください。

工場出荷時の値に戻す

- 1 キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
デフォルト値を読み込みます。
- 3 キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定の変更を保存して終了します。

また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の は、ご購入時の設定です。

メインの設定

システム時刻

現在の時刻(時:分:秒)を24時間形式で入力します。

システム日付

日付を「年/月/日」で入力します。

言語を英語に設定している場合は、「月/日/年」で入力します。

言語

BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選べます。

フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

設定項目	設定内容
フロッピーディスクA	使用しない
	1.44/1.25MB 3.5"

プライマリマスタ(内蔵HDD)

現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。

設定項目	設定内容	説明
タイプ	自動 / ユーザ	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。 「ユーザ」を選択するとシリンダ、ヘッド、セクタの項目を設定することができます。
32ビットI/O	使用しない / 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。

セカンダリマスタ(内蔵CD-ROM)

内蔵CD-ROMの接続を表示します。

起動時表示デバイス

「LCD / CRT / 両方」の3つからディスプレイデバイスを選びます。ご購入時には「両方」に設定されています。

システムメモリ

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

拡張メモリ

搭載されている拡張メモリを表示します。

CPUタイプ

CPUタイプを表示します。

CPU速度

CPU速度を表示します。

BIOSバージョン

BIOSのバージョンを表示します。

詳細の設定

PS/2マウス

PS/2マウスを使用するかどうかを選びます。

ご購入時には「使用する」に設定されています。

使用するOS

組み込み済のOSの中から使用するOSの種類を選びます。

サイレントブート

「自己診断画面 / ログ画面 / 非表示」の3つからブート時の画面を選びます。

ご購入時には「ログ画面」が選択されています。

ローカルバスIDEアダプタ

「使用しない / プライマリ / セカンダリ / 両方」の4種類から内蔵ローカルバスIDEアダプタを使用します。

ご購入時には「両方」に設定されています。

周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ

【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。

設定項目	設定内容	説 明
シリアルポート	使用しない	シリアルポートは使用できません。
	使用する	ユーザがI/Oベースアドレスを設定することができます。
	自動	BIOSがI/Oベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
赤外線ポート	使用しない	赤外線ポートは使用できません。
	使用する	「使用する」にすると赤外線ポートのモード、I/Oベースアドレス、DMAチャンネルを設定できます。
	自動	自動的に赤外線ポート設定を行います。「自動」にすると赤外線ポートのモードを設定できます。
モード	IrDA/FIR	赤外線ポートを「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。赤外線ポートにモード設定します。
I/Oベースアドレス	3F8/2F8/3E8/2E8	赤外線ポートを「使用する」に設定すると表示されます。赤外線ポートにI/Oベースアドレスを設定します。
DMA チャンネル	DMA0/DMA1	赤外線ポートを「使用する」に設定すると表示されます。赤外線ポートにDMAチャンネルを設定します。
パラレルポート	使用しない	パラレルポートは使用できません。
	使用する	ユーザがパラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、DMAチャンネルを設定することができます。
	自動	BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	出力のみ / 双方向 / ECP	パラレルポートにモードを設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない / 使用する	本機では「使用する」のままでご使用ください。

セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

メモ

スーパーバイザパスワードは、BIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面となり、設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

参照 セキュリティ機能 (→p.40)

スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定を行います。

キーボードの【↑】【↓】で項目を選択し【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されます。

ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定を行います。

キーボードの【↑】【↓】で項目を選択し【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されます。

起動時のパスワード

システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

レジューム時のパスワード

レジューム時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

ハードディスク起動セクタ

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかの設定を行います。

書き込み禁止にすると起動セクタをウィルスから保護します。

ディスクアクセス

「スーパーバイザ」に設定するとスーパーバイザ以外ディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

チェック!! 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。

参照 NECの問い合わせ先 →『NEC PC あんしんサポートガイド』または『メンテナンス&サポートのご案内』

パスワードの解除処置を依頼されるときは、次のことをご確認ください。

- ・パスワード解除処置は保証期限内でも有償です。
- ・パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。

省電力管理

システムの省電力管理設定を行います。

電源スイッチ

「スリープ」に設定すると、電源スイッチでサスペンドすることができません。ご購入時には「パワーオフ」に設定されています。

AC電源時の省電力

「使用する」に設定すると、ACコンセント接続時においても省電力モードが有効になります。

省電力

パワーマネジメントモードを選びます。モードを選ぶことによってシステムのパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説 明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を禁止します。
	カスタマイズ	各種タイムアウト時間をユーザ自身で選べます。
	最大省電力	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 スタンバイタイムアウト: 1分 自動サスペンドタイムアウト: 5分 ハードディスクタイムアウト: 1分 ビデオタイムアウト: 2分
	最大パフォーマンス	電力をより多く消費しますが、システムパフォーマンスは最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 スタンバイタイムアウト: 16分 自動サスペンドタイムアウト: 60分 ハードディスクタイムアウト: 15分 ビデオタイムアウト: 15分

 **チェック!!** 省電力についてはPowerProfilerでの設定が優先されます。BIOSセットアップメニューでは「省電力」を「使用しない」に設定することをおすすめします。

サスペンドモード

ご購入時には「サスペンド」に設定されています。本機では「サスペンド」のままでご使用ください。

モデムリングによるレジューム(FAXモデム内蔵モデルのみ)

「オン」に設定すると、モデムが呼び出し信号を受信したときに、システムをサスペンド状態から復帰します。ご購入時には「オフ」に設定されています。

レジューム時刻

「オン」に設定すると、レジューム時刻設定時間に自動的にシステムをサスペンド状態から復帰します。ご購入時には「オフ」に設定されています。

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。番号が小さいデバイスからオペレーティングシステムを起動します。もしオペレーティングシステムが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【F6】を押すとリストの上側に移動し、【F5】を押すとリストの下側に移動します。

なお、ニューメリックロックキーランプ  が点灯しているときには前面に【+】【-】の刻印のあるキーでカーソルの位置を移動することができます。

複数のデバイスが存在する「ハードディスク」取り外し可能なデバイス」については、さらにその中で起動する優先順を設定することができます。

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

このPARTの内容

本機のお手入れ

機能一覧

割り込みレベル・DMA チャンネル

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

準備するもの

汚れが軽いとき

乾いたやわらかい素材のきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECサービスセンター、サービスステーションに問い合わせてください。



参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしん サポートガイド』または『メンテナンス&サポートのご案内』

パソコンのお手入れをはじめる前に

△注意



- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

パソコンのお手入れをはじめる

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。



チェック!!

- ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

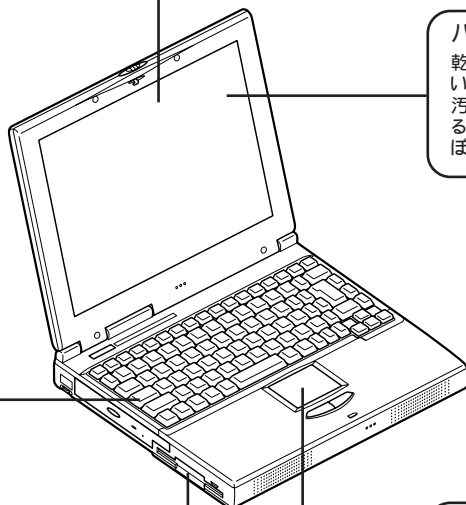
乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡ってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

パソコン

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭きます。



キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭きます。キーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECサービスセンター、サービスステーションに問い合わせてください。NECのお問い合わせ先:『NEC PCあんしんサポートガイド』

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

NXパッド

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭きます。



機能一覧

型番の読み方と機能仕様

PC-VA23[↓]*W[↓]*B[↓]A[↓]*[↓]*[↓]4

CPUタイプ

C : Pentium MMX

D : Pentium

ディスプレイタイプ

X : XGA TFT液晶ディスプレイ

S : SVGA TFT液晶ディスプレイ

D : HPA 液晶ディスプレイ

ハードウェア種別(通信機能/メモリ容量)

A : LAN内蔵 / 32Mバイト

B : LAN内蔵 / 64Mバイト

C : LAN内蔵 / 96Mバイト

M : なし / 32Mバイト

N : なし / 64Mバイト

R : なし / 96Mバイト

T : モデム内蔵 / 32Mバイト

U : モデム内蔵 / 64Mバイト

V : モデム内蔵 / 96Mバイト

ハードディスク容量

3 : 約3.2Gバイト

4 : 約4.3Gバイト

仕様一覧

型番・型名の*のところは、前ページの「型番の読み方と機能仕様」をご覧ください。

の項目の仕様は、ご使用のモデルによって異なります。

型 名	VA23D/WX model BA**4	VA23D/WS model BA**4 VA23C/WS model BA**4	VA23C/WD model BA**4
型 番	PC-VA23DWX BA**4	PC-VA23DWS BA**4 PC-VA23CWS BA**4	PC-VA23CWD BA**4
CPU	VA23D: Mobile Pentium® VA23C: MMX ³ テクノロジPentium®プロセッサ		
周波数	233MHz		
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト		
メモリ	ROM	256Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準 32Mバイト / 64Mバイト / 96Mバイト	
	最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚増設した場合)	
	ビデオRAM	2Mバイト	
表示機能	表示素子	バックライト付13.3インチ TFTカラー液晶ディスプレイ ¹	バックライト付12.1インチTFTカラー 液晶ディスプレイ ¹
	ウィンドウアクセラレータ	Neo Magic社製NM2160標準搭載 (ビデオアクセラレーション機能対応) VA23D/WXの場合: 640×480ドット(26万色中256色/65536色/1677万色*) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色*) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色) 上記以外のモデルの場合: 640×480ドット(26万色中256色/65536色/1677万色*) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色*) *: ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現	
	別売のCRT ディスプレイ接続時	640×480ドット(256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(256色/65536色)	
	サウンドチップ	ESSテクノロジー社製 ES1968S-M2搭載	
サウンド機能	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショニング機能	

型 名	VA23D/WX model BA**4	VA23D/WS model BA**4 VA23C/WS model BA**4	VA23C/WD model BA**4
型 番	PC-VA23DWX BA**4	PC-VA23DWS BA**4 PC-VA23CWS BA**4	PC-VA23CWD BA**4
通信機能	LAN	なし / LAN内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)	
	モデム	なし / モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(K56flex/V.90)エラー訂正 V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	なし / 内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)Fnキー(ホットキー対応)12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M/1.44M/バイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ	内蔵(約3.2Gバイト / 約4.3Gバイト)	
	CD-ROMドライブ	CAV方式、CD-DA(オーディオCD)CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2) マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速となります。	
インターフェイス		マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン) / パラレル(D-SUB25ピン) / シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応) / ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン) / 赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度最大4Mbps) / USB	
サウンド関連		ライン入力(ステレオ、ミニジャック) / ヘッドホン / ライン共用出力(ステレオ、ミニジャック) / マイク入力(モノラル、ミニジャック)	
PCカードスロット		TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) ⁶ PC Card Standard準拠、CardBus対応 ²	
パワーマネジメント		自動または任意設定可能	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)	
バッテリー駆動時間 ⁵		VA23D: 約1.2 ~ 2.7時間 VA23C: 約1.8 ~ 3.9時間	
バッテリー充電時間 ⁵		約2.8時間	

型 名	VA23D/WX model BA**4	VA23D/WS model BA**4 VA23C/WS model BA**4	VA23C/WD model BA**4
型 番	PC-VA23DWX BA**4	PC-VA23DWS BA**4 PC-VA23CWS BA**4	PC-VA23CWD BA**4
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁵ (バッテリーフル充電時)	約6日		
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ² またはAC100 ± 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ³)		
消費電力	VA23D: 約20W VA23C: 約16W		
	内蔵オプション最大接続時 約50W		
温湿度条件	5 ~ 35℃、20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	299(W) × 247(D) × 39(H) mm(最上部42(H) mm)(突起部含まず)		
重量 ⁵	約2.9kg	約2.8kg	

1 液晶ディスプレイは消耗部品です。

液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

また、輝度やコントラストの調整具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります、故障ではありません。

2 バッテリーパックは消耗品です。

3 ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

4 18℃ ~ 28℃、45% ~ 75%での使用を推奨。

5 時間や重量は本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

6 MS-DOSモードでは使用できません。

内蔵FAXモデム機能仕様 (FAXモデム内蔵モデル)

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス 16550A相当(I/Oアクセス、割り込み)
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・CPU 直結パラレルアクセスによる高スループット K56flex、V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-6 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/ 40000/38000/36000/34000/32000 ¹
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/ 40000/38000/36000/34000/33600/32000/31200/28800/26400/ 24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-6 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2 ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:¥Windows¥ATCREAD.DOC

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU 形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

内蔵LAN機能仕様 (LAN内蔵モデル)

規格概要

項 目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離	約200m
ネットワーク経路長	約200m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA / CD方式

リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベル・DMAチャンネル

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャンネルについて

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを定めるもので、「DMAチャンネル」はCPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	(空き)
1	キーボード	10	内蔵FAXモデム*2
2	割り込みコントローラ		内蔵LANインターフェイス*3
3	赤外線通信 ¹		CardBusコントローラ
4	通信ポート		アクセラレータ
5	サウンド	11	(空き)
	PCIステアリングホルダー	12	NXバッド
6	フロッピーディスクコントローラ	13	数値データプロセッサ
7	プリンタポート	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
8	システムクロック	15	IDEコントローラ(内蔵CD-ROM)

*1: 赤外線通信機能使用時

*2: FAXモデム内蔵モデルのみ

*3: LAN内蔵モデルのみ

DMAチャンネル

DMA	インターフェイス
#0	赤外線通信*4
#1	プリンタポート
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	サウンド*5
#4	DMAコントローラ

*4: 赤外線通信機能使用時

*5: 赤外線通信機能未使用時には、サウンドのDMAは#1になります。



索引

索引

英字

100BASE-TX	53
10BASE-T	52
BIOSセットアップメニュー	99
CD-ROMドライブ	20
CRTディスプレイ	68
CRT用コネクタ	69
DCコネクタ	90
DMAチャネル	121
FAXモデム	48, 118
【Fn】エフエヌキー)	9
LAN	52, 120
LAN用モジュラーコネクタ	55
MS-IME	12
NXパッド	13
PCカード	71
PCカードイジェクトボタン	2
PCカードスロット	71
RAM	81

あ行

アクセスランプ	5, 6
液晶ディスプレイ	24
オーディオ入力端子	3
お手入れ	112
音量調節つまみ	3

か行

解像度	25, 68, 70
外部ディスプレイ	68
外部マイクロホン端子	3
画面表示機能	24
起動順位	109
キーボード	7
輝度	24
キャップスロックキーランプ	6
共有プリンタ	67
クリック	13

クリックボタン	2
---------	---

さ行

サウンド	46
サスペンド	36
サスペンドランプ	5
充電	27
周辺機器	58, 61
省電力機能	35, 94, 107
シリアルコネクタ	3
スーパバイザパスワード	40, 106
スクロールロックランプ	6
スタンバイ	35
スピーカ	2
スリープ	35
赤外線通信ポート	3, 45
赤外線通信機能	44
セキュリティ機能	40, 106
増設RAMボード	81

た行

タップ	13
ダブルクリック	13
ダブルタップ	13
通風孔	2
デバイスドライバ	62
テンキーボード	90
電源スイッチ	2
電源ランプ	5
電話回線用モジュラーコネクタ	2
盗難防止用ロック	2
ドラッグ	14

な行

内蔵マイクロホン	2
内蔵モデム	48
日本語入力	12
ニューメリックロックキーランプ	6
ネットワーク通信機能	52

は行

ハードディスク 17
 ハードディスクアクセスランプ 5
 パスワード 40, 106
 バッテリ残量 29
 バッテリ充電ランプ 5
 バッテリバック 4
 パラレルコネクタ 64
 パワーマネージメント 39
 非常時ディスク取り出し穴 23
 表示色 25, 68
 表示ランプ 5, 6
 プリンタ 63, 64
 プリンタケーブル 64
 フル充電 27
 プロジェクタ 70
 フロッピーディスクイジェクトボタン ... 19
 フロッピーディスクドライブ 18
 フロッピーディスクアクセスランプ . 6, 19
 ヘッドホン / オーディオ出力端子 3
 ポートバー 86
 ポインティングデバイス 13
 ポインタ 13
 ホットキー機能 9
 ポート 61

ま行

マウス / テンキーボード用コネクタ 90
 メモリ 81
 メモリ効果 30
 メモリスロット 83
 モデム(内蔵) 48, 118
 モジュラーケーブル 49
 モジュラーコネクタ 49

や行

ユーザパスワード 40, 106
 ユニバーサル管理アドレス 56

ら行

リンクケーブル 54
 レジューム 36, 38
 ロックレバー 86

わ行

割り込みレベル 121



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** SERIES

VersaPro **NX**

VA23D/WX・VA23D/WS
VA23C/WS・VA23C/WD

(Windows NT インストール)

初版 1998年11月

NEC

P



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。